

参考資料

参考 1 サウジアラビア人の健康食品に関する意識調査

参考 2 周辺国の農業政策

参考1 サウジアラビア人の健康食品に関する意識調査

1-1 調査概要

サウジアラビア王国内の居住者を対象として、健康食品に関する意識調査をインターネットアンケートにより実施した。調査の概要は下記の通りである。

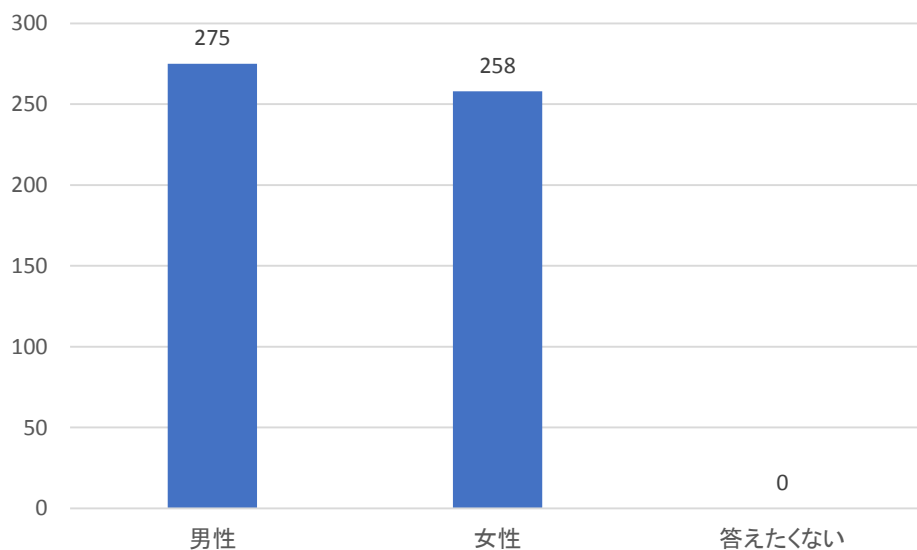
図表 119 健康食品に関する意識調査概要（再掲）

項目	概要
調査名称	健康食品に関する調査
テーマ	サウジアラビア王国内の居住者の健康食品に対する認識を調査する
対象	サウジアラビア王国居住者としてインターネット調査パネルに登録している男女かつ 10 代～50 代の 533 名（男性 275 名、女性 258 名）
方法	インターネット調査パネルの登録者に対してアンケート回答メールを送信し、男女ともに 250 回答を超えた日に調査ウェブサイトを開鎖
期間	2017 年 11 月 10 日～11 月 17 日（日本時間）

1-2 回答者の属性

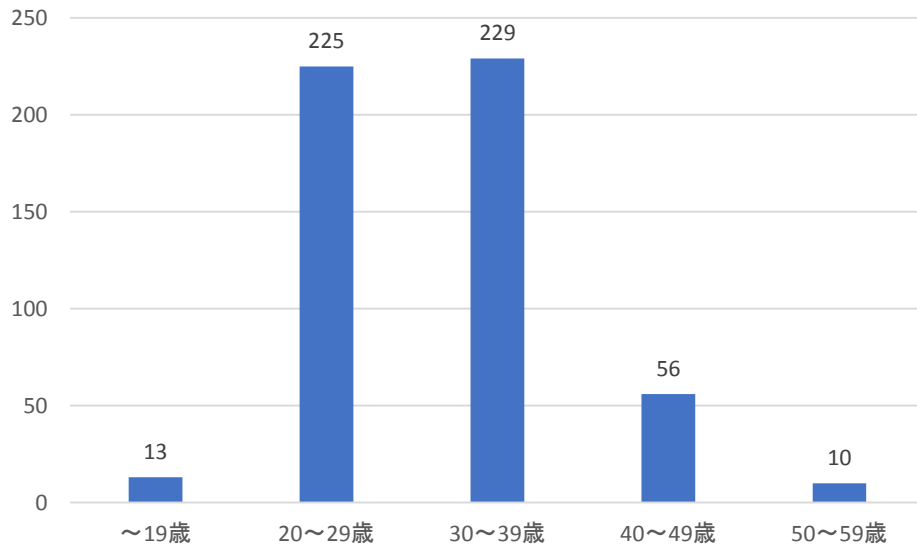
回答者は男性が 275 名、女性が 258 名であった。なお、調査回答には「答えたくない」を設けていたが、「答えたくない」と回答した場合は本調査の回答者から省いた。

（F1）性別



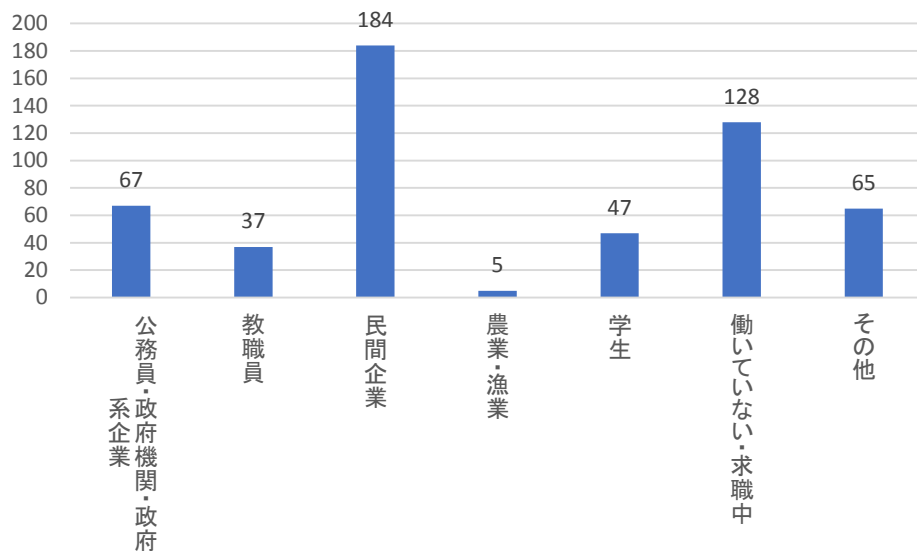
年齢は20代、30代が200人以上となり、非常に多かった。10代及び50代はパネルへの登録数がそもそも少なく、回答が集まらなかった。

(F2) 年齢



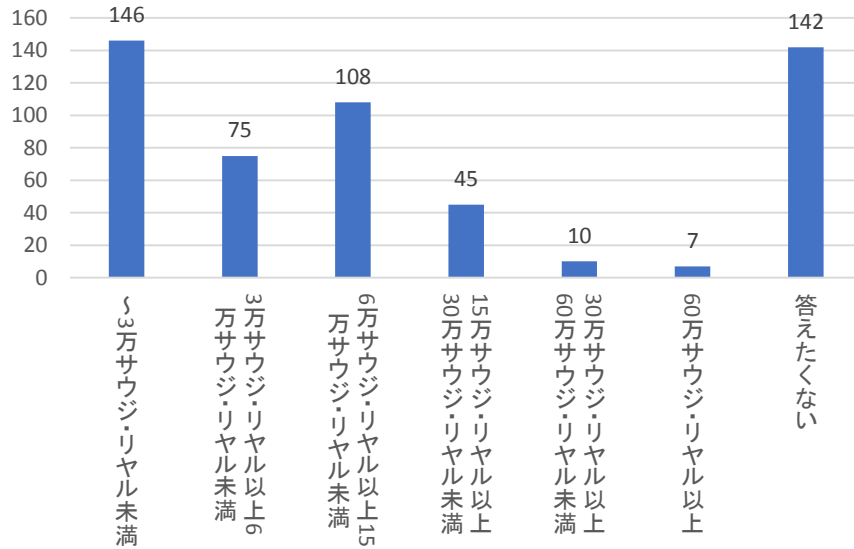
職業は「民間企業」が最も多かったものの、次に多いのが「働いていない・求職中」が多いが、女性の社会進出が充分でないためと考えられる。

(F3) 職業



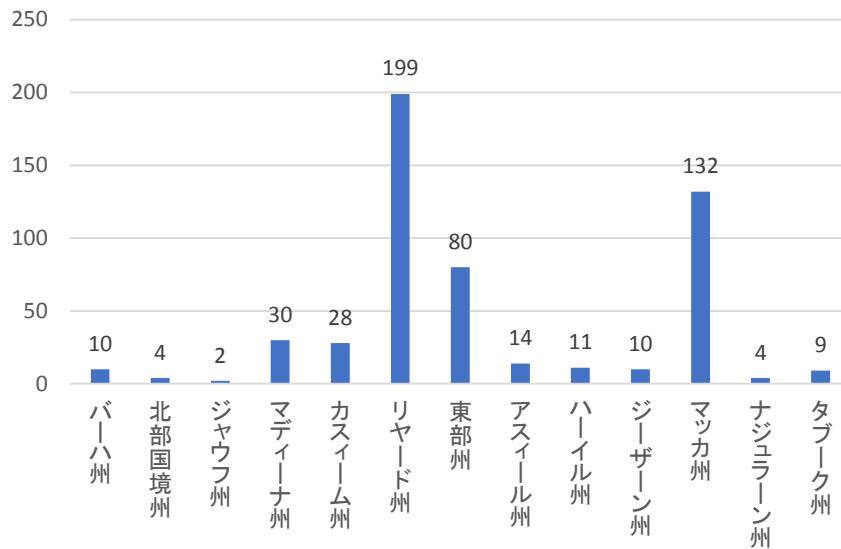
年収は「答えたくない」との回答が全体の 25%以上に及んでいるために正確ではない可能性はあるが、3 万サウジ・リヤル未満の回答者が最も多く、高額所得者は少なかった。

(F4) 年収



居住州はリヤード州、マッカ州、東部州が多く、3 州で 75%以上を占めた。

(F5) 居住州



1-3 回答結果の集計と分析

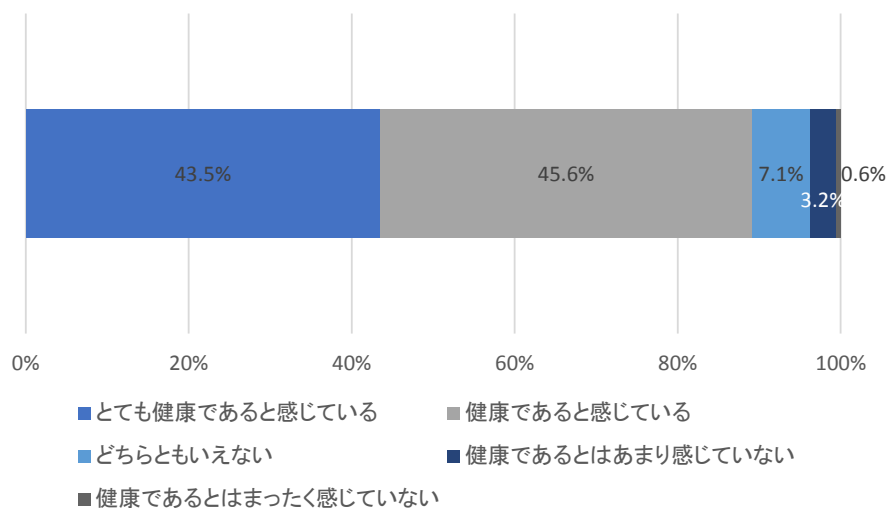
以下では、各設問への回答結果の集計結果を掲載する。

属性別分析については、当該属性について顕著な傾向の違いが見られた場合にのみ掲載する。

【自らの健康について】

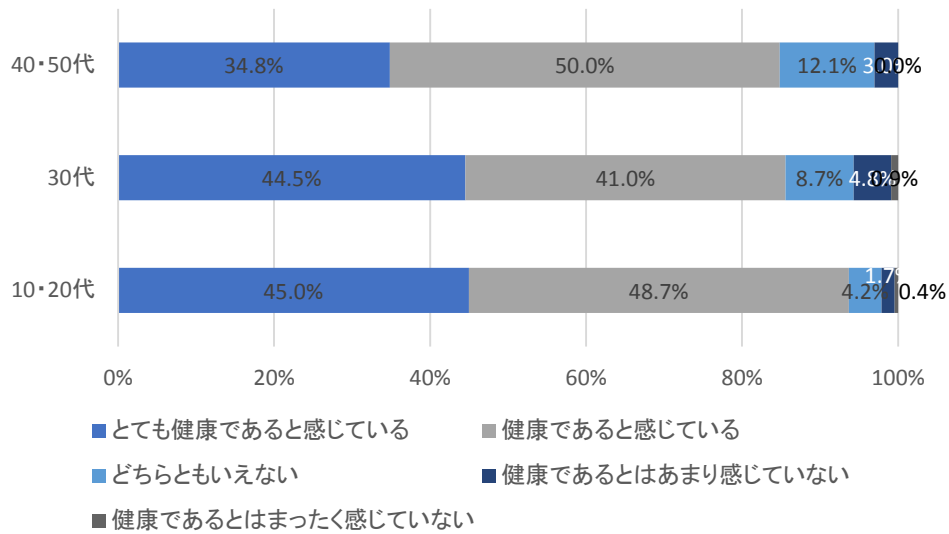
本調査の回答者は多くが自らは健康であると考えており、「とても健康であると感じている」「健康であると感じている」は併せて 89.1%となった。一方で、「健康であるとはあまり感じていない」「健康であるとはまったく感じていない」との回答は併せて 3.8%にとどまった。

(Q1) あなたは今、ご自身の健康についてどのように感じていますか。[回答は1つのみ]



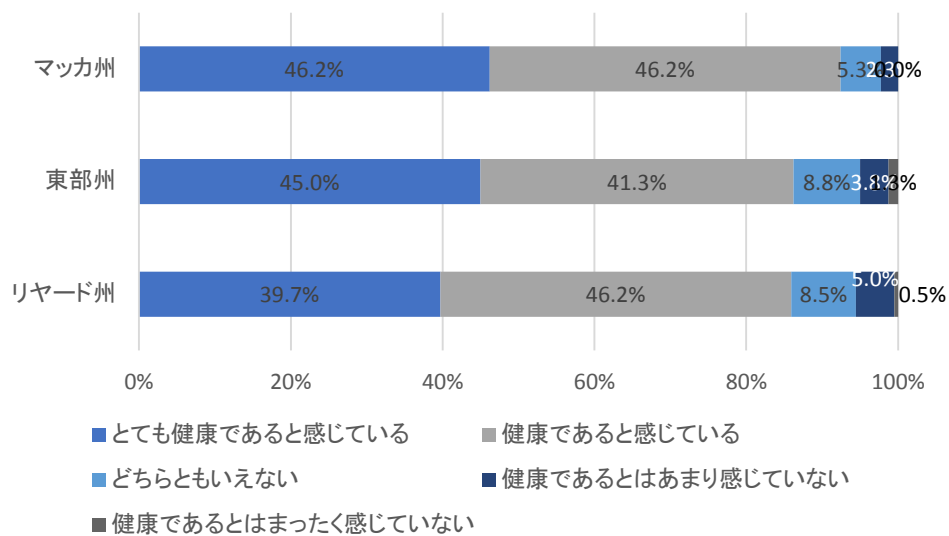
年代別に見ると、年齢が高くなるごとに健康であると回答する割合は低下する傾向にあるが、40・50代であっても 84.8%が「とても健康であると感じている」「健康であると感じている」と回答している。

(Q1) (年代別)



居住地別に見ると、マッカ州では「とても健康であると感じている」「健康であると感じている」の割合がやや高い。

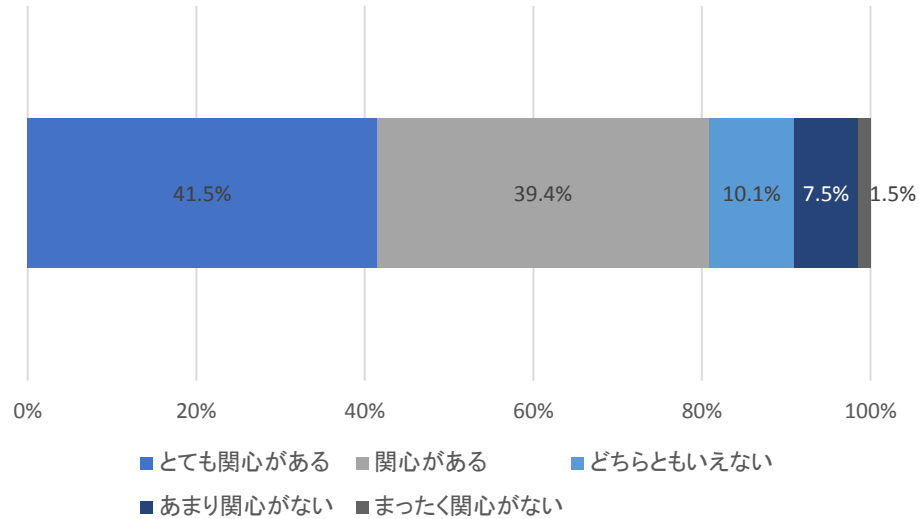
(Q1) (居住地別)



【健康食品への関心】

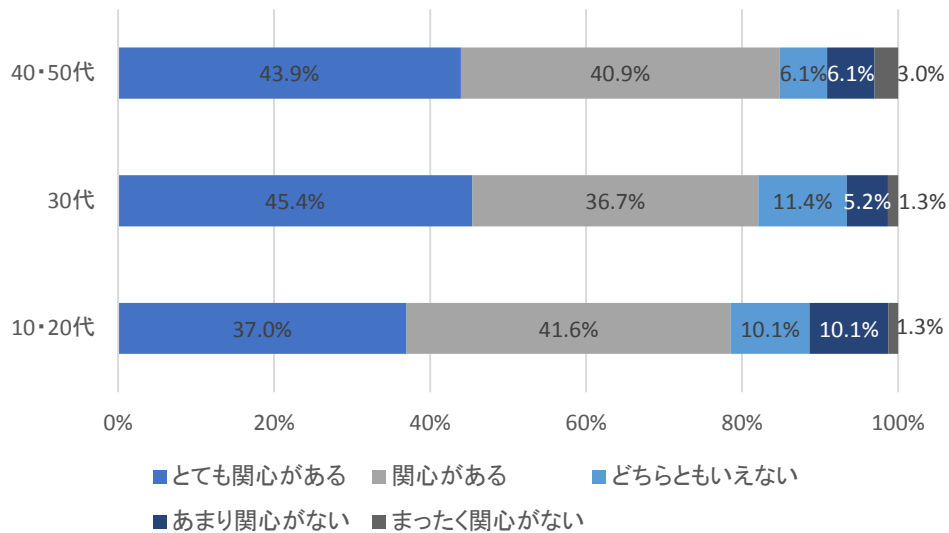
健康食品には高い関心が持たれており、「とても関心がある」「関心がある」は併せて 80.9%となった。「あまり関心がない」「まったく関心がない」は併せて 9.0%にとどまり、多数が関心を持っている。

(Q2) あなたは自らの健康を高めたり、体の調子を整えたりするための食品（健康食品）について興味・関心がありますか。[回答は1つのみ]



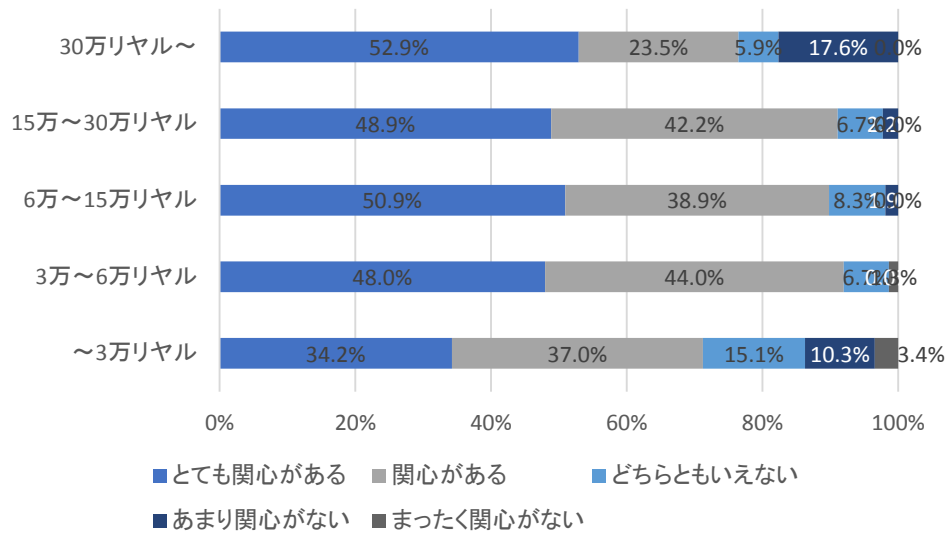
年代別に見ると、10・20代は他の年代に比較してやや関心が低いですが、10・20代も健康食品への関心は高く、「とても関心がある」「関心がある」を併せて78.6%となっている。

(Q2) (年代別)



収入別に見ると、年収が高まるに従って健康食品への関心は高まっていると判断できる。

(Q2) (収入別)

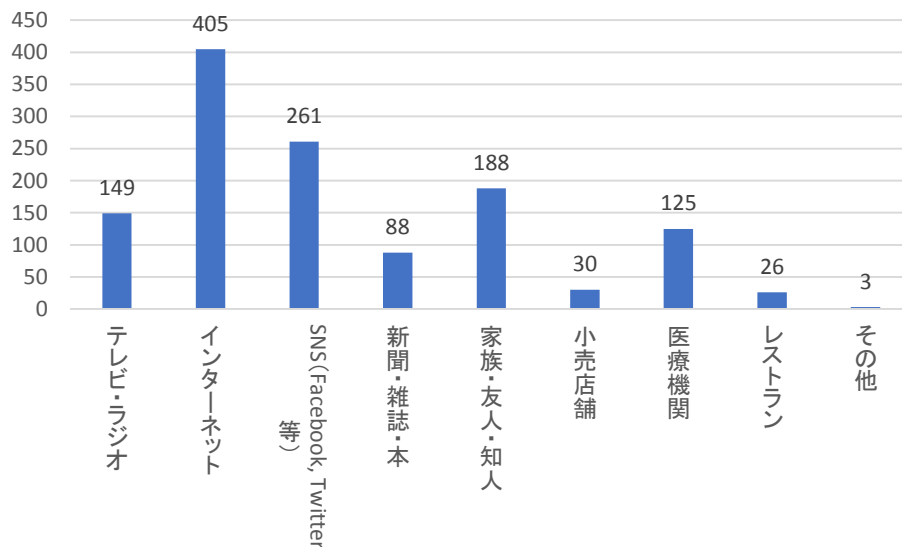


※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【情報入手経路】

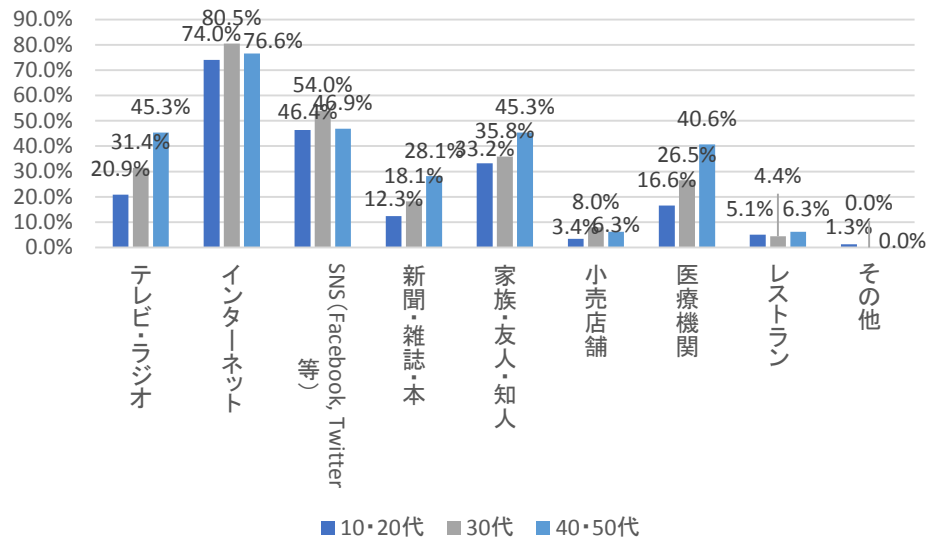
健康食品の情報は「インターネット」経由が最も多く、75%以上がインターネットを情報源としている。また、SNS 及び「家族・友人・知人」といった口コミも情報源として機能している。一方で、「テレビ・ラジオ」や「新聞・雑誌」といった従来からのメディアは情報源として十分に利用されている状況にはない。

(Q3) あなたは健康食品に関する情報をどこから入手していますか。[複数回答]



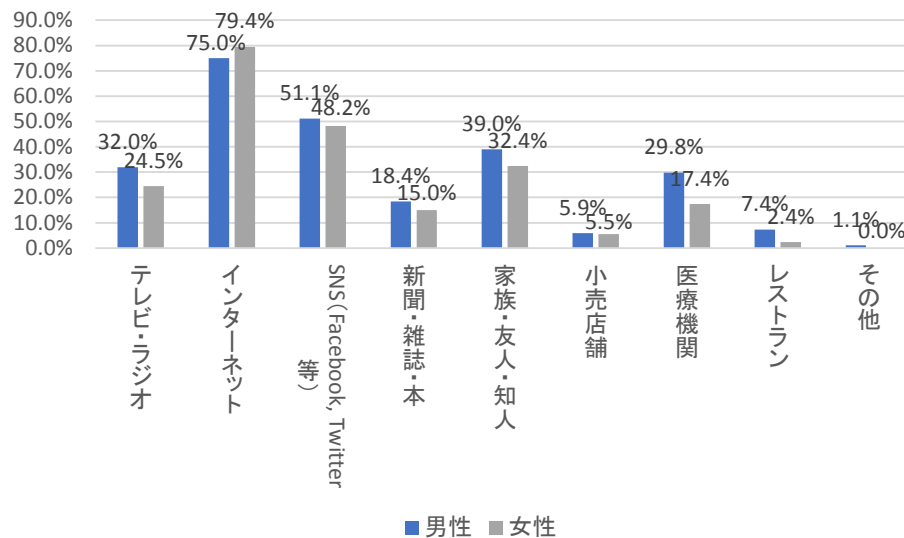
年代別に見ると、年齢が高くなるに従い、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌・本」「家族・友人・知人」「医療機関」は高くなる傾向にある。「インターネット」「SNS (Facebook, Twitter など)」は30代が最も高く、10・20代、40・50代に大きな差異は見られない。

(Q3) (年代別)



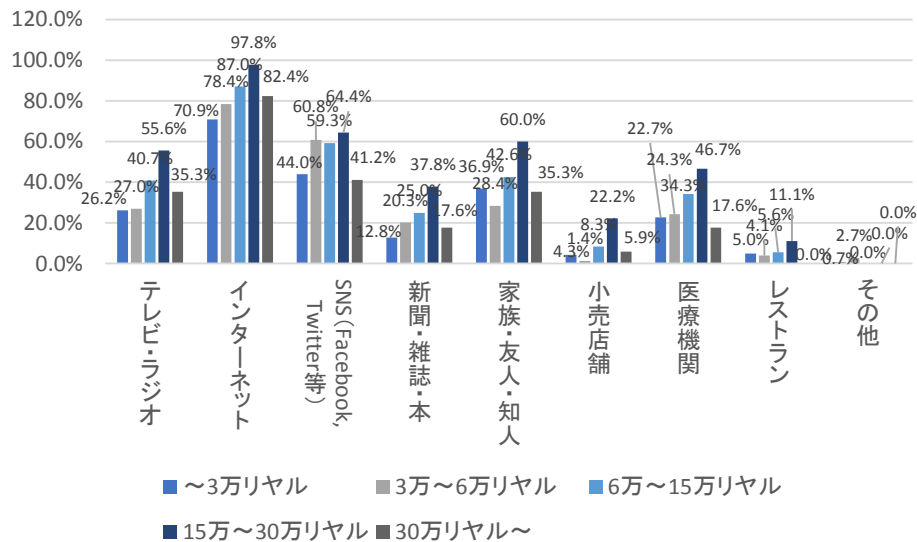
性別に見ると、男性は「医療機関」「テレビ・ラジオ」の利用率がやや高い。一方で、女性はインターネットの利用率がやや高い。

(Q3) (性別)



収入別に見ると、ほぼすべての項目について、収入が高まるに従って情報源としている割合が高くなっており、情報収集に敏感となっていると考えられる。「家族・友人・知人」については、年収が低くとも重視する傾向が見られる。

(Q3) (収入別)

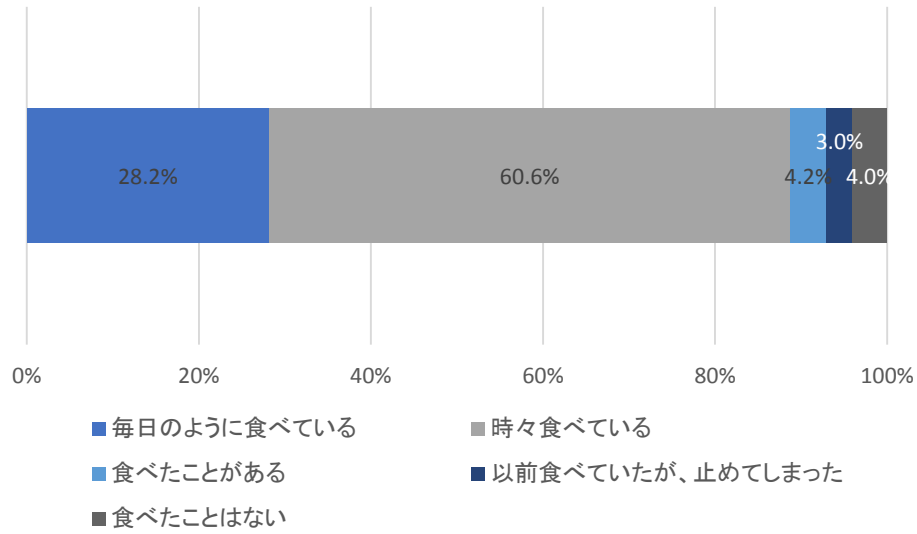


※年収 30 万円以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【健康食品の利用状況】

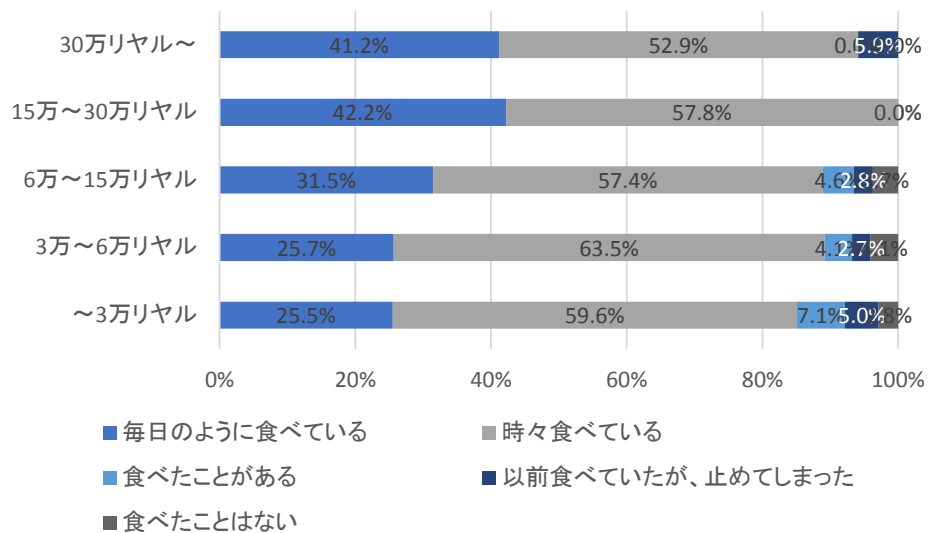
「毎日のように食べている」「時々食べている」を併せると 88.8% となり、非常に多くの人が定期的に健康食品を利用していることが示された。サウジアラビア王国内には健康食品が大きく広がっていると判断できる結果となった。

(Q4) あなたは、健康食品を日常的に利用していますか。[回答は1つのみ]



収入別に見ると、利用状況についても年収と比例して高くなっており、年収が高いほど健康食品を利用していることが示された。ただし、3万サウジ・リヤル未満であっても85.1%が習慣的に利用していると回答しており、少ないとは言えない。

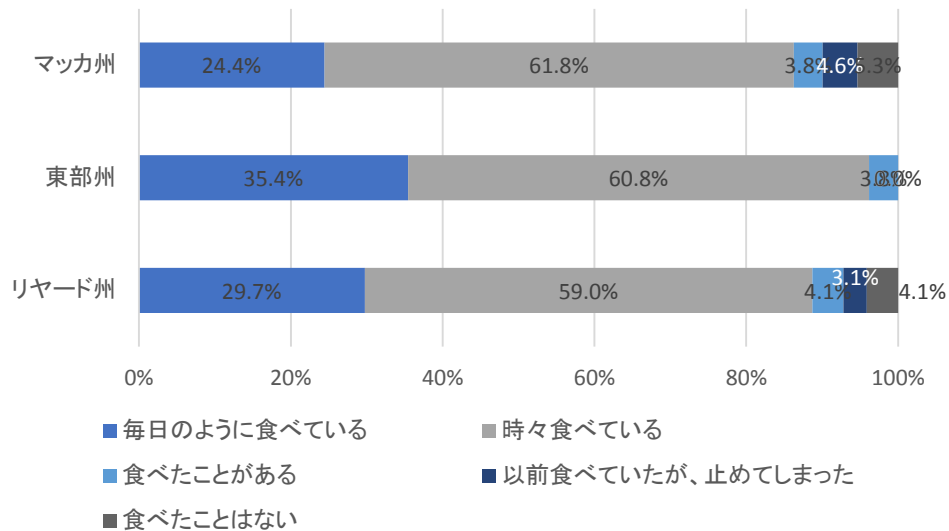
(Q4) (収入別)



※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

居住地別に見ると、利用状況は東部州で比較的高く、「毎日のように食べている」「時々食べている」の合計で 96.2%となっている。マッカ州とリヤード州では大きな差は見られない。

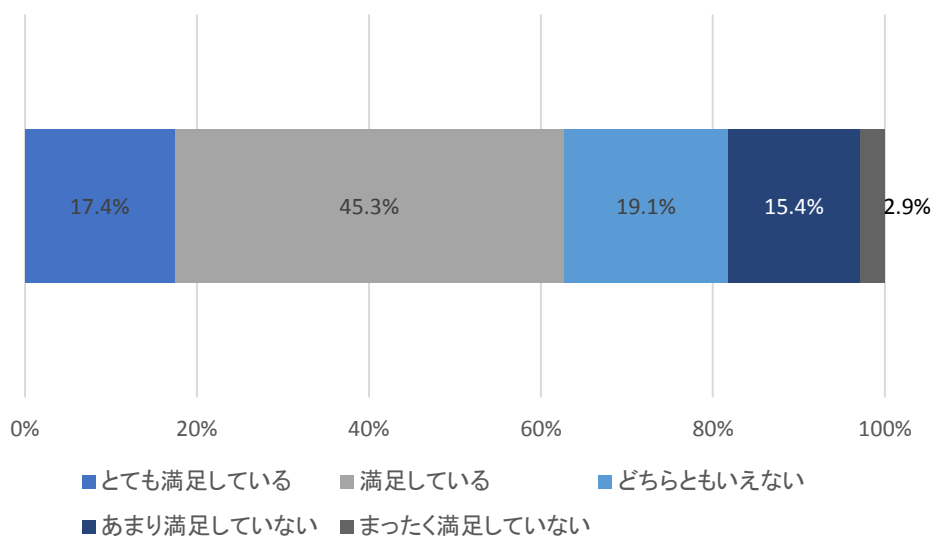
(Q4) (居住地別)



【健康食品の満足度】

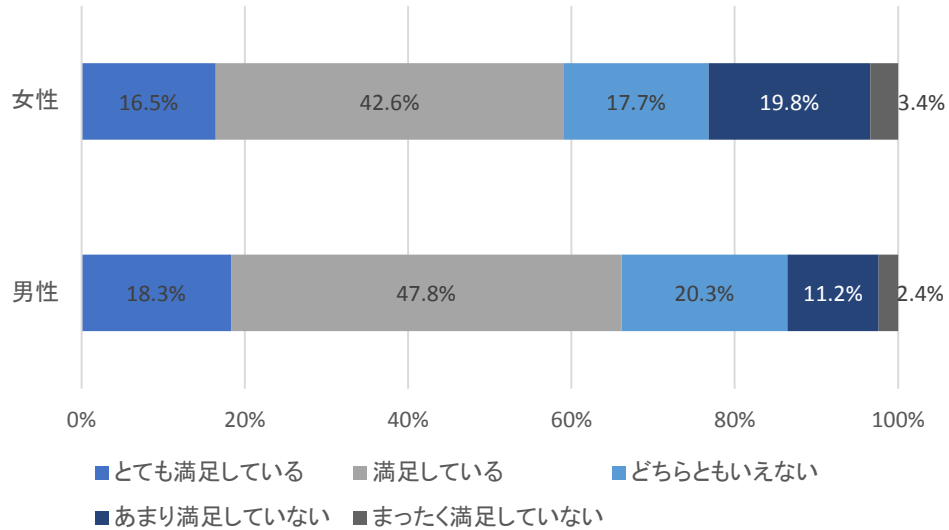
健康食品を利用している人の、健康食品に対する満足度も高く、「とても満足している」「満足している」の合計が 62.7%であった。一方で、「あまり満足していない」「まったく満足していない」は併せて 18.3%となり、定期的にご利用している人の中にも満足していない人は少なくない。

(Q5) あなたは、現在利用している健康食品の効果に満足していますか。[回答は1つのみ]



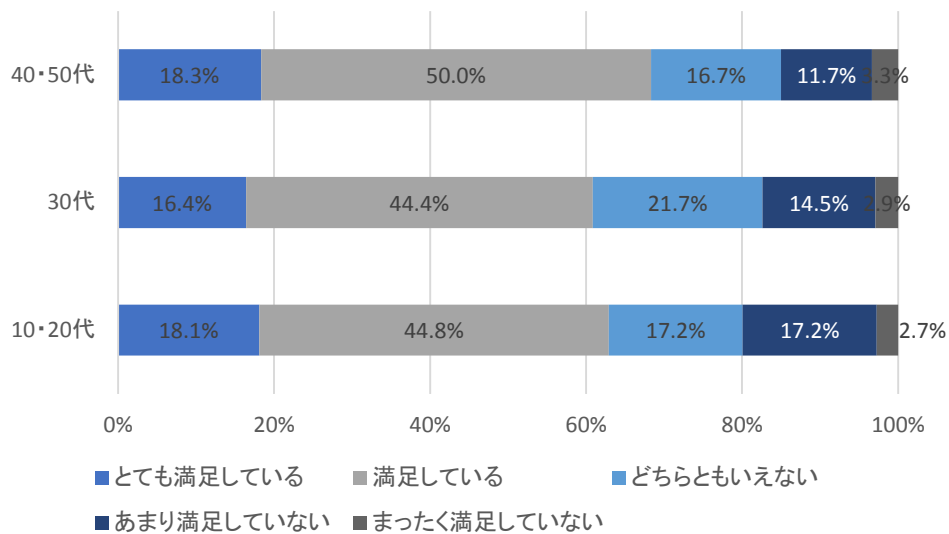
性別に見ると、満足度は男性の方がやや高く、女性は「あまり満足していない」「満足していない」を併せて 23.2%となった。

(Q5) (性別)



年代別に見ると、年齢が高いほど、満足している人の割合は高い。10・20代は「あまり満足していない」「まったく満足していない」の合計が 19.9%であり、5人に1人が満足していないとの回答となった。

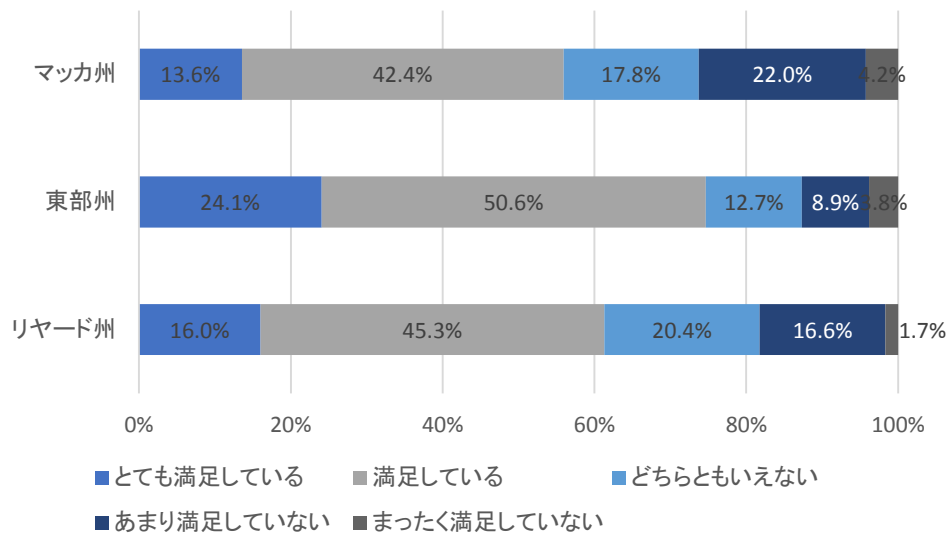
(Q5) (年代別)



参考資料

居住地別に見ると、最も利用しているとの回答が多い東部州の満足度が他の州よりも高い。マッカ州では 26.2%が「あまり満足していない」「まったく満足していない」と回答している。

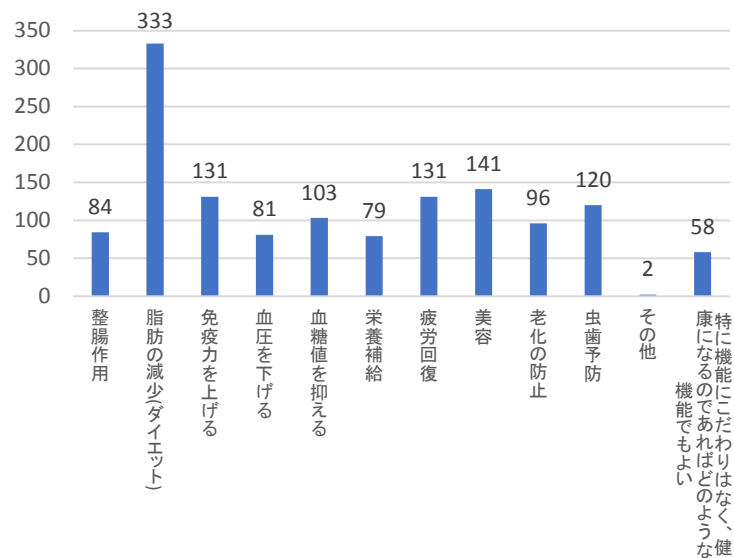
(Q5) (居住地別)



【健康食品の機能】

「脂肪の減少（ダイエット）」に対する興味・関心が最も高く、他の項目に大きな差は見られなかった。

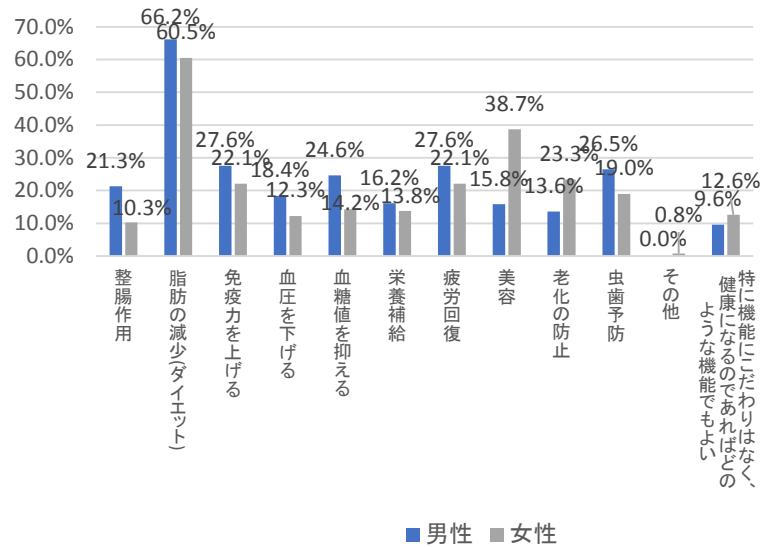
(Q6) あなたは、どのような機能を持つ健康食品に興味がありますか。[複数回答]



参考資料

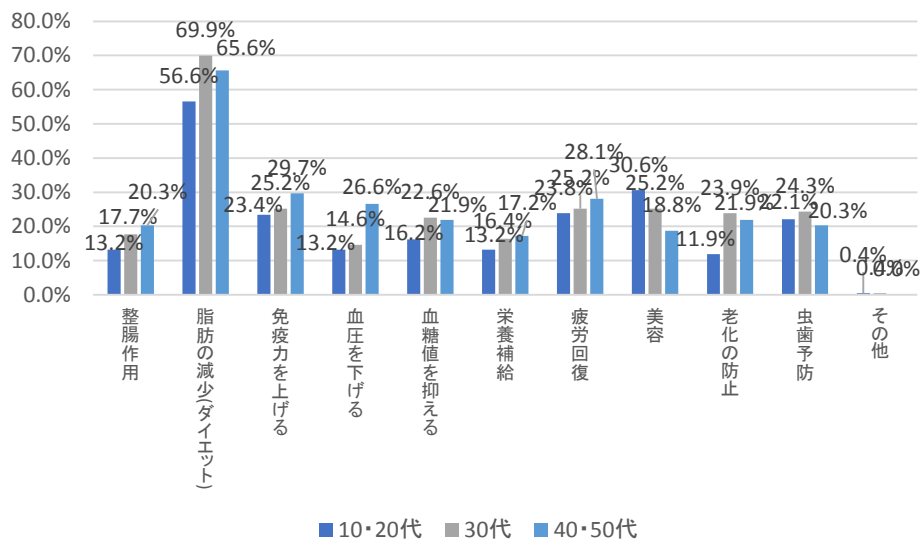
性別に見ると、「脂肪の減少（ダイエット）」「免疫力を上げる」「血糖値を抑える」「虫菌予防」は男性の関心が強い一方で、「美容」「老化の防止」は女性の関心が強かった。

(Q6) (性別)



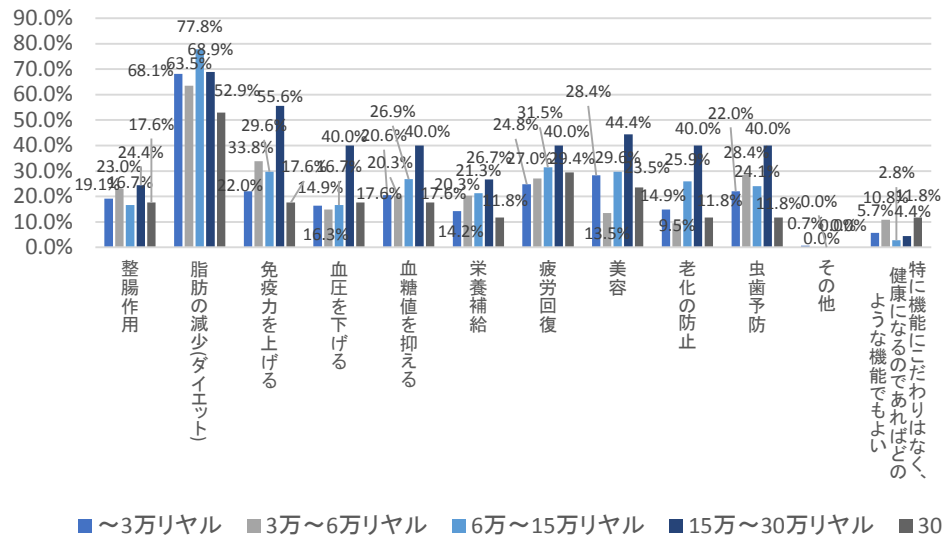
年代別に見ると、「脂肪の減少（ダイエット）」は30代で高いが、他の項目は多くは年齢に比例して高くなっている。

(Q6) (年代別)



収入別に見ると、求める機能については15万～30万サウジ・リヤルの層が多く、項目で高くなっているが、「脂肪の減少（ダイエット）」については15万～30万サウジ・リヤルの層が特に高いとは言えない。年収が高い層が健康についての知識があり、関心が高いと考えることができる。

(Q6) (収入別)

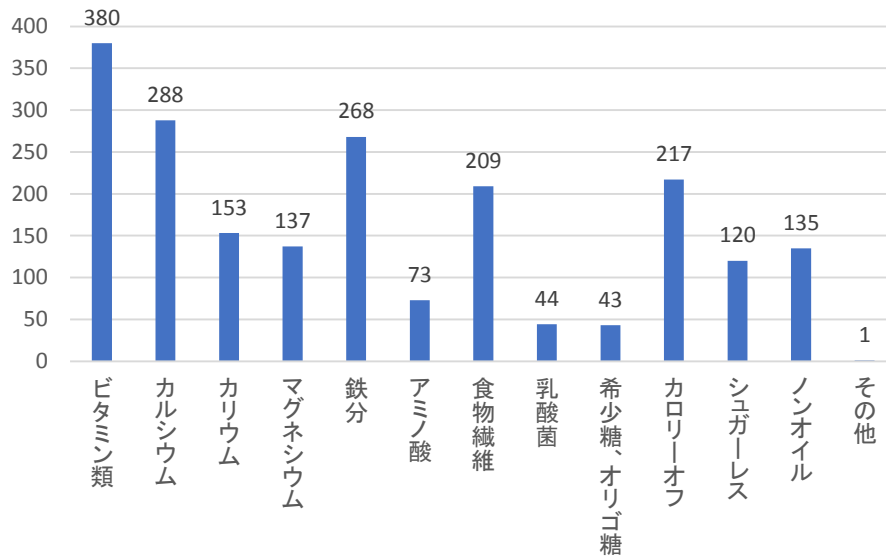


※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【健康食品の成分】

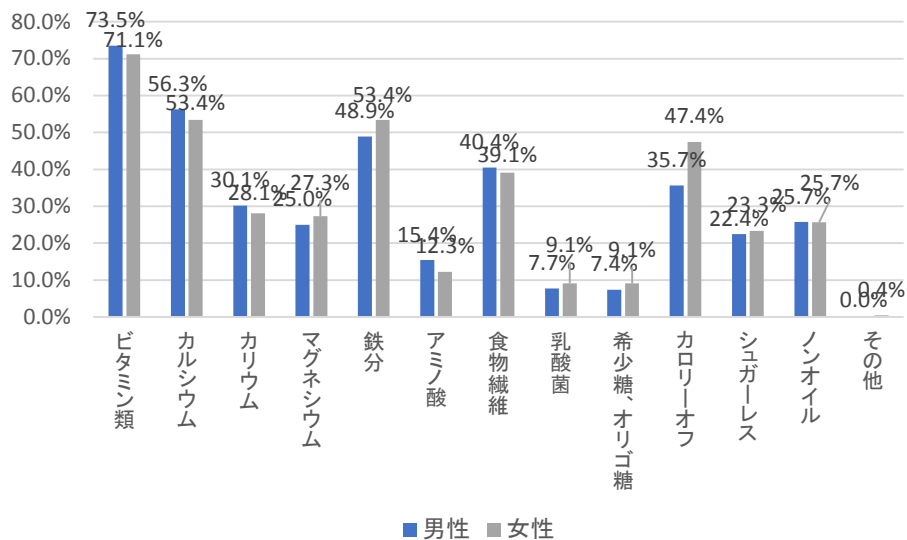
成分についての興味は、「ビタミン類」が最も高く、以下「カルシウム」「鉄分」は50%以上が「興味がある」と回答、さらに「カロリーオフ」「食物繊維」は40%程度が「興味がある」と回答した。なお、どのような成分があるかについての知識に回答が影響されている可能性がある。

(Q7) あなたは、どのような成分が含まれた（10.～12.は成分が少ない）健康食品に興味がありますか。[複数回答]



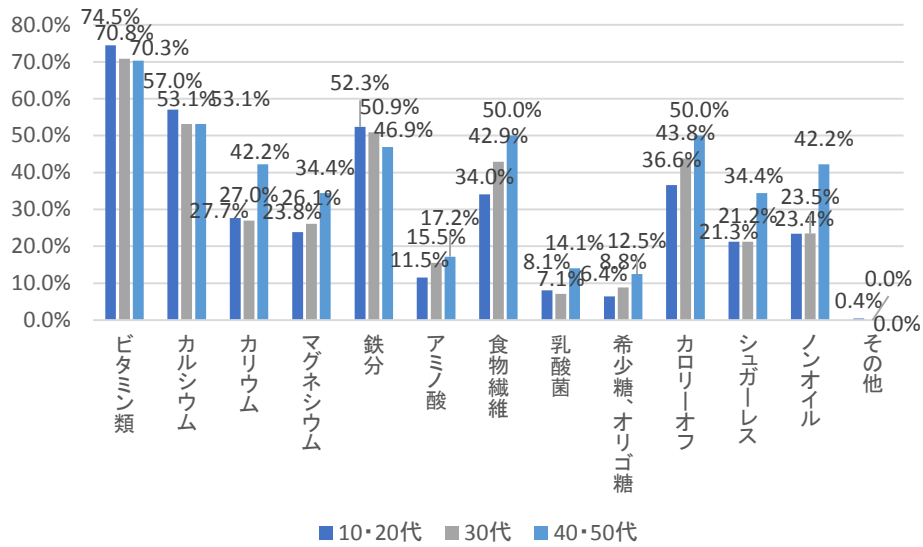
性別に見ると、「カロリーオフ」については女性の興味が高い。

(Q7) (性別)



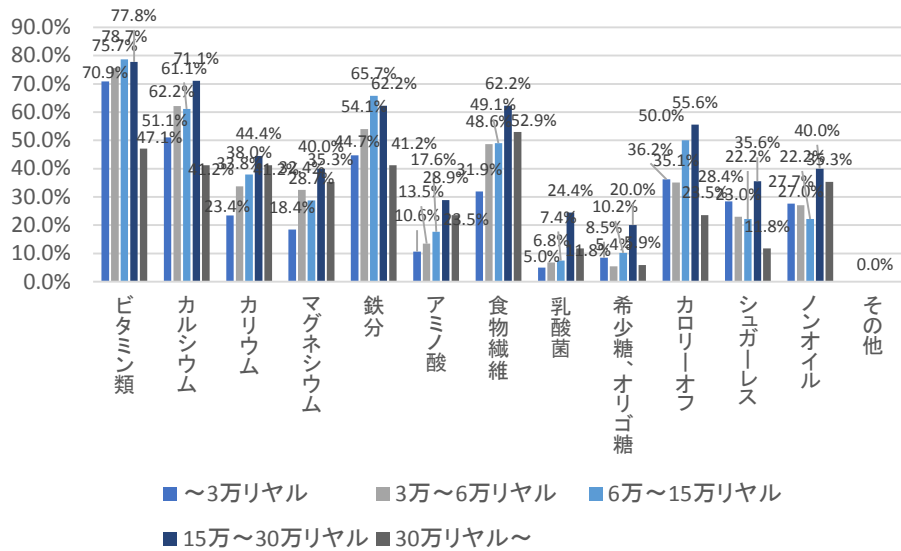
年代別に見ると、10・20代で高い割合となっている項目は「ビタミン類」「カルシウム」「鉄分」であった。他の項目は、多くが年齢に比例して高くなっている。

(Q7) (年代別)



収入別に見ると、年収が高いほど、成分についても関心を持っている。ただし、この結果は知識に影響を受けている可能性も考えられ、年収が高いほど栄養の成分についての知識を持っている結果とも考えられる。

(Q7) (収入別)

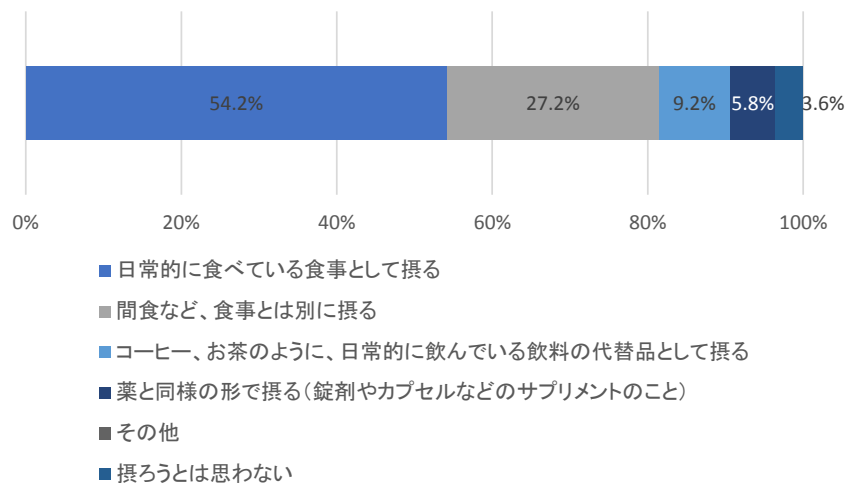


※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【健康食品の摂り方】

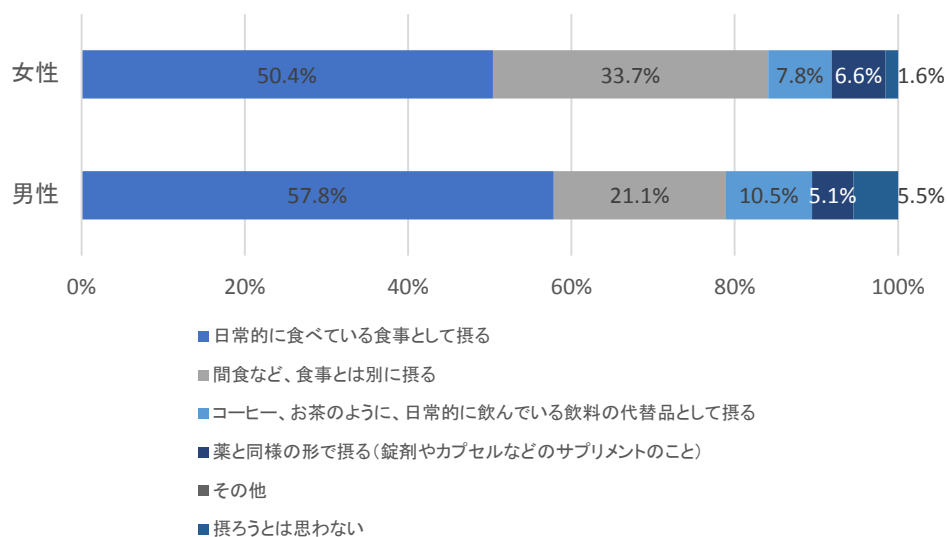
「日常的に食べている食事として摂る」との回答が 50%を超えており、「感触など、食事とは別に摂る」という回答は 27.2%にとどまった。「摂ろうとは思わない」という回答は 3.6%であり、何らかの形で健康食品を利用することに関心は持たれている。

(Q8) あなたは、どのように健康食品を摂ることが望ましいと考えていますか。[回答は 1 つのみ]



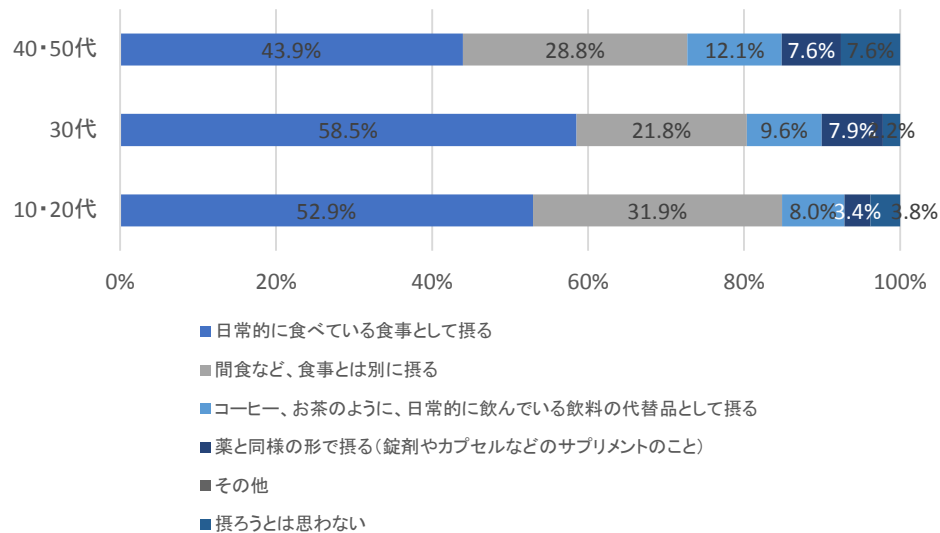
性別に見ると、男性は女性より「日常的に食べている食事として摂る」ことを望む一方で、女性は「間食など、食事とは別に摂る」ことを求める割合が男性よりも高かった。

(Q8) (性別)



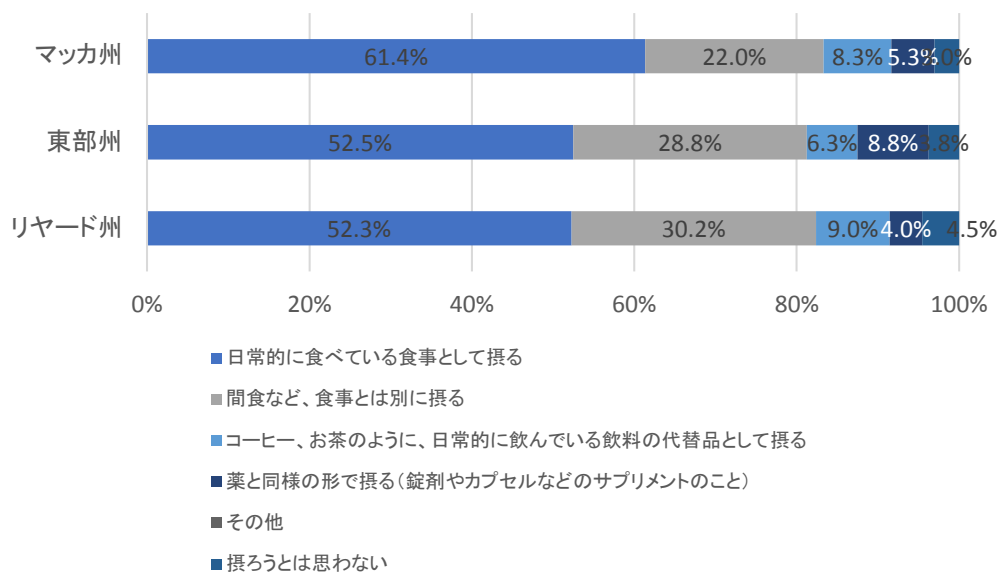
年代別に見ると、10・20代、30代は50%以上が「日常的に食べている食事として摂る」ことを望ましいとしている。40・50代は食事として摂るとの回答は43.9%にとどまり、他の年代よりも「コーヒー、お茶のように、日常的に飲んでいる飲料の代替品として摂る」がやや多くなっている。

(Q8) (年代別)



居住地別に見ると、マッカ州では「日常的に食べている食事として摂る」との回答の割合が高い。東部州とリヤード州については大きな差は見られない。

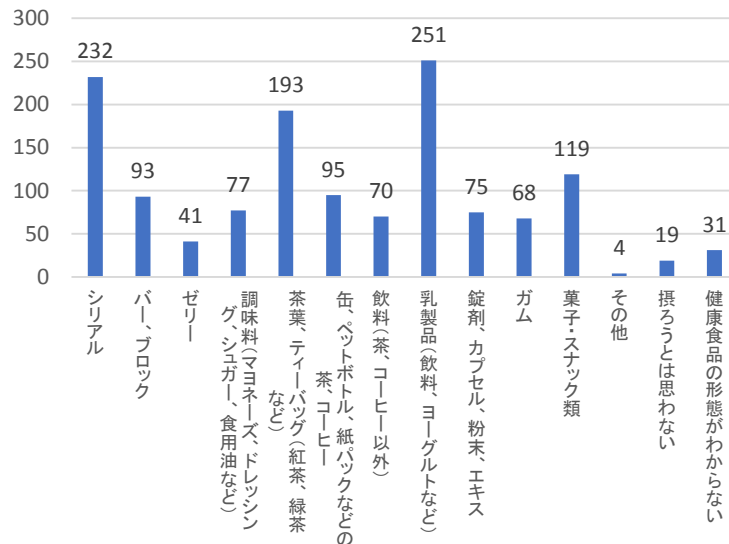
(Q8) (居住地別)



【健康食品の形態】

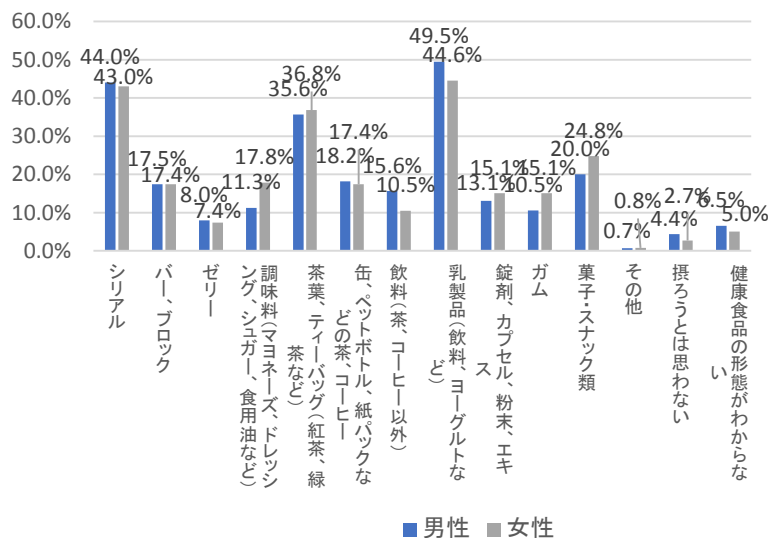
Q8 の食事として摂るという考え方が多い結果と関連し、「シリアル」「乳製品（飲料、ヨーグルトなど）」との回答が多く、間食と判断される「バー、ブロック」や「ゼリー」の回答は少なかった。

（Q9）あなたは、どのような形態の健康食品を摂ることに興味がありますか。【複数回答】



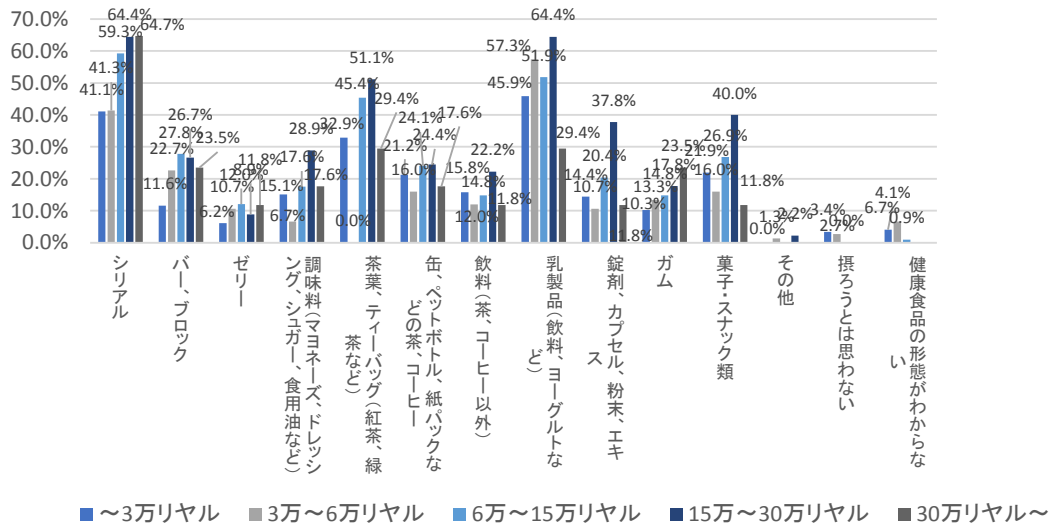
性別に見ると、男性は女性よりも「飲料（茶、コーヒー以外）」「乳製品（飲料、ヨーグルトなど）」の健康食品を摂ることに興味がある。一方、女性は男性よりも「調味料（マヨネーズ、ドレッシング、シュガー、食用油など）」「ガム」「菓子・スナック類」の健康食品を摂ることに興味がある。

（Q9）（性別）



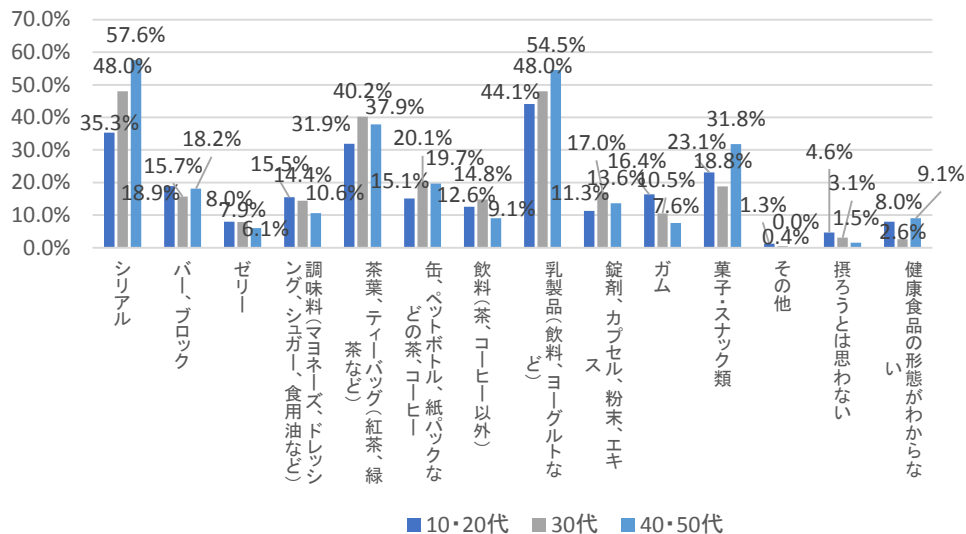
収入別に見ると、多くの項目で、年収が高いほどその形態の健康食品を摂ることに興味があるという回答が多い。これは、年収が高くなるほど、健康食品の具体的なイメージを持つことができる結果とも考えられる。

(Q9) (収入別)



年代別に見ると、「シリアル」「乳製品（飲料、ヨーグルトなど）」は年齢に比例して高くなっている。「調味料（マヨネーズ、ドレッシング、シュガー、食用油など）」は40・50代で低く、「菓子・スナック類」は30代で低い。

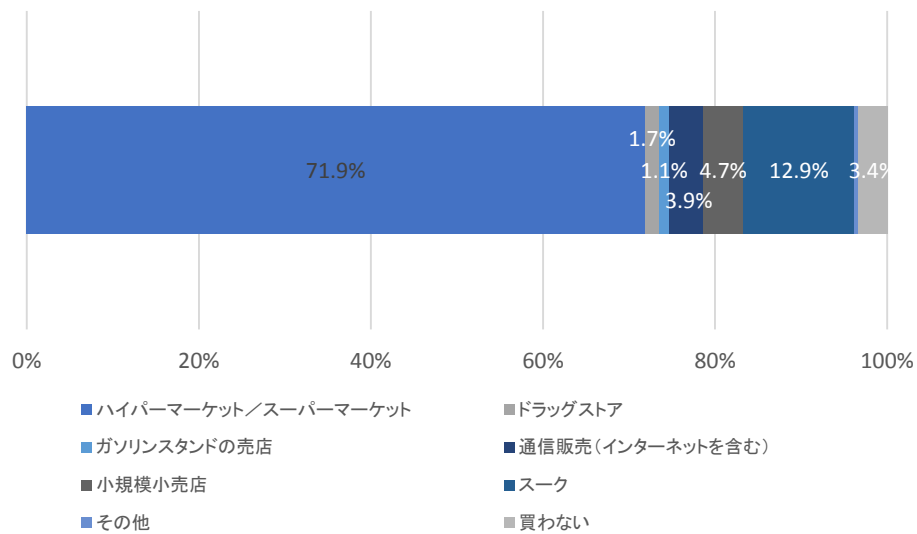
(Q9) (年代別)



【健康食品の購入場所】

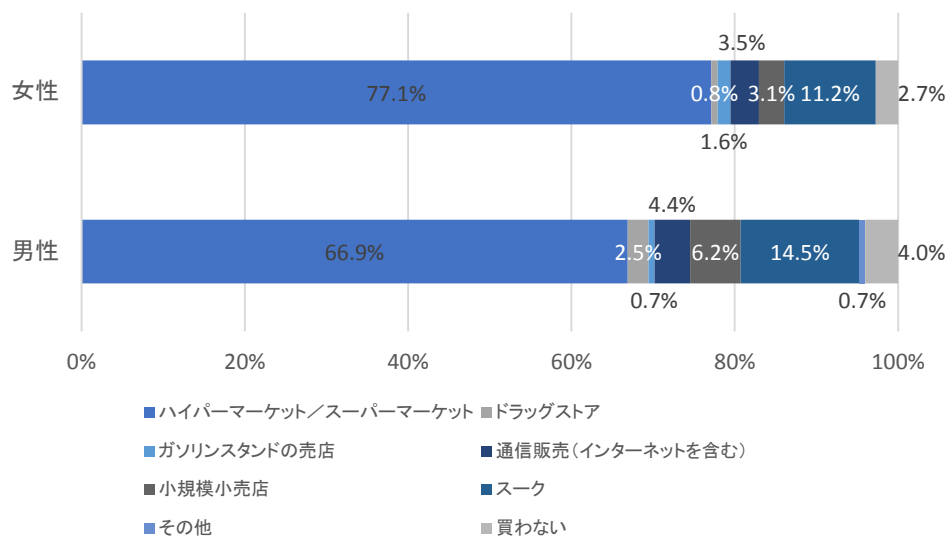
71.9%が「ハイパーマーケット／スーパーマーケット」で購入すると回答しており、現在の健康食品の商品展開も近代的な商業施設を中心になされていると考えられる。なお、「スーク」での購入も 12.9%と「ハイパーマーケット／スーパーマーケット」の次に多い回答となっている。

(Q10) あなたは、どのような場所で健康食品を買いますか。[回答は1つのみ]



性別に見ると、男性は女性よりも「小規模小売店」「スーク」で買うという回答の割合がやや高く、女性は「ハイパーマーケット／スーパーマーケット」で買うという回答がやや高い。

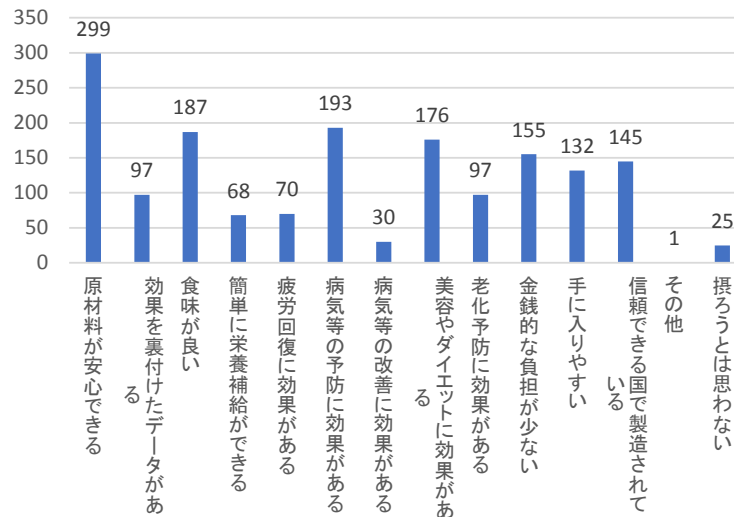
(Q10) (性別)



【健康食品を選ぶキーワード】

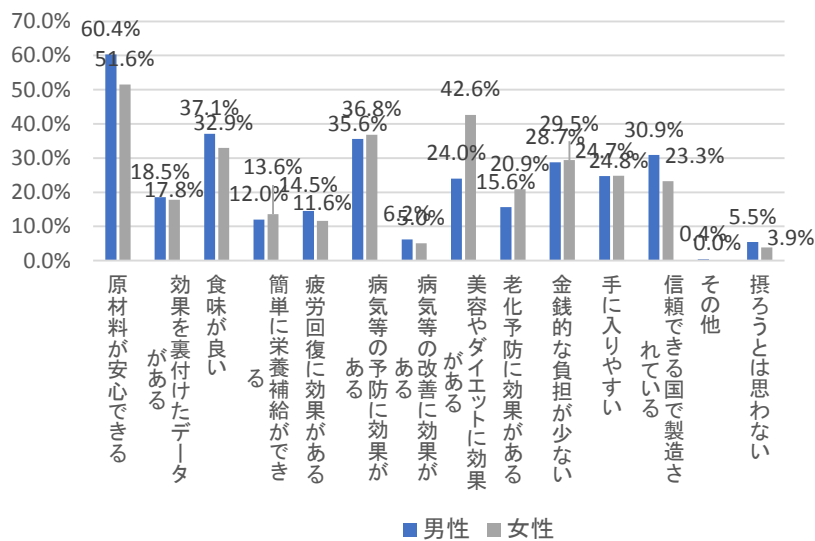
様々な効果をキーワードとして考えていることに加えて、「原材料が安心できる」ことが重視される結果となった。また、「食味が良い」ことも重視されている。

(Q11) あなたが健康食品を選ぶ理由として、こういったキーワードを重視しますか。[複数回答]



性別に見ると、男性は「原材料が安心できる」「食味が良い」「信頼できる国で製造されている」をキーワードとして重視する割合が女性よりもやや高い。一方で女性は「美容やダイエットに効果がある」「老化予防に効果がある」ことをキーワードとして重視する割合が高い。

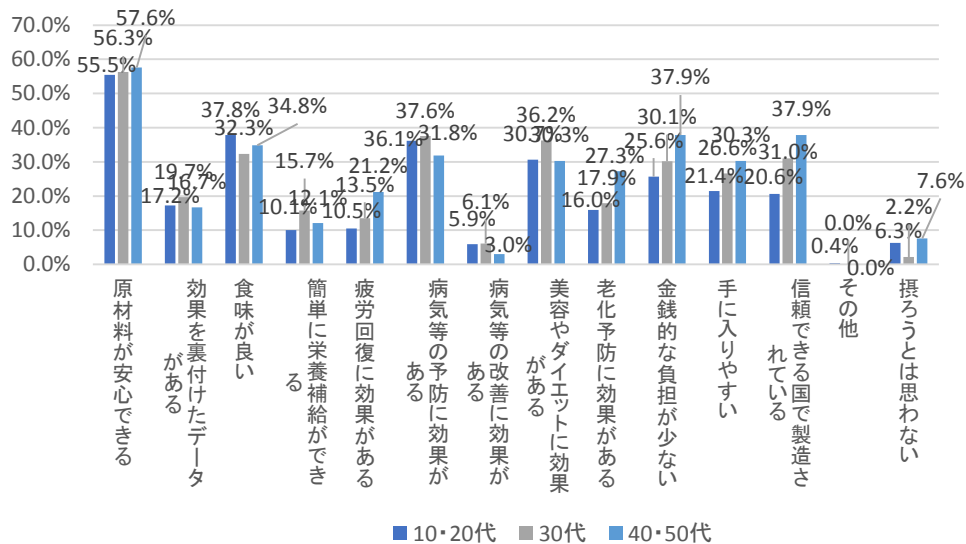
(Q11) (性別)



■ 男性 ■ 女性

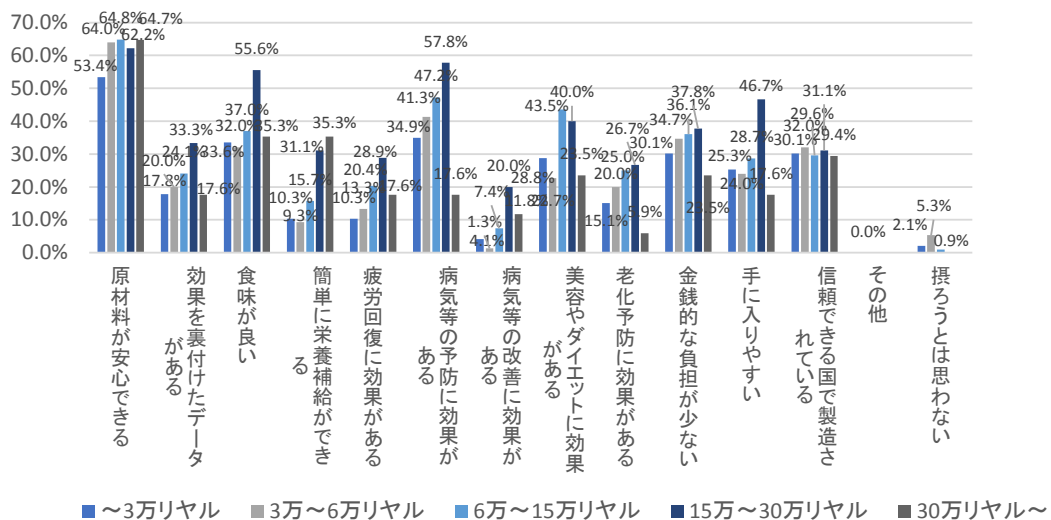
年代別に見ると、「老化予防に効果がある」「金銭的な負担が少ない」「手に入りやすい」「信頼できる国で製造されている」といった項目は年齢に比例して高くなっている。「簡単に栄養補給ができる」「美容やダイエットに効果がある」といった項目は30代が他の年代よりも高い。

(Q11) (年代別)



収入別に見ると、年収が高い層は「食味が良い」「病気等の予防に効果がある」収入別に見ると、「病気等の改善に効果がある」「手に入りやすい」といった項目において、他の層よりも重視するという回答が多い。

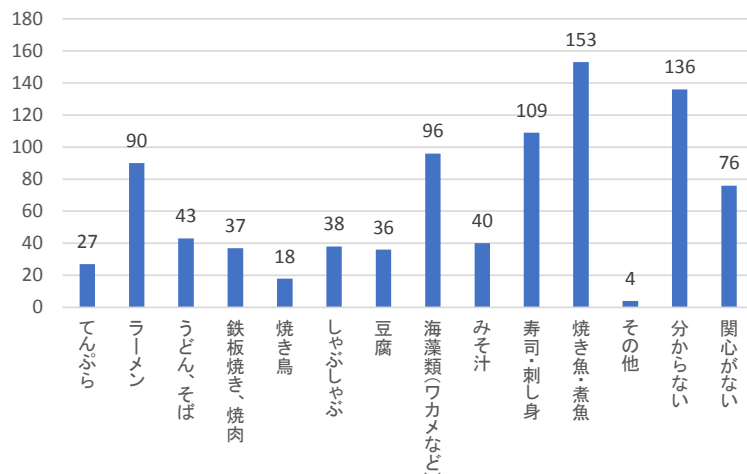
(Q11) (収入別)



【日本食への関心】

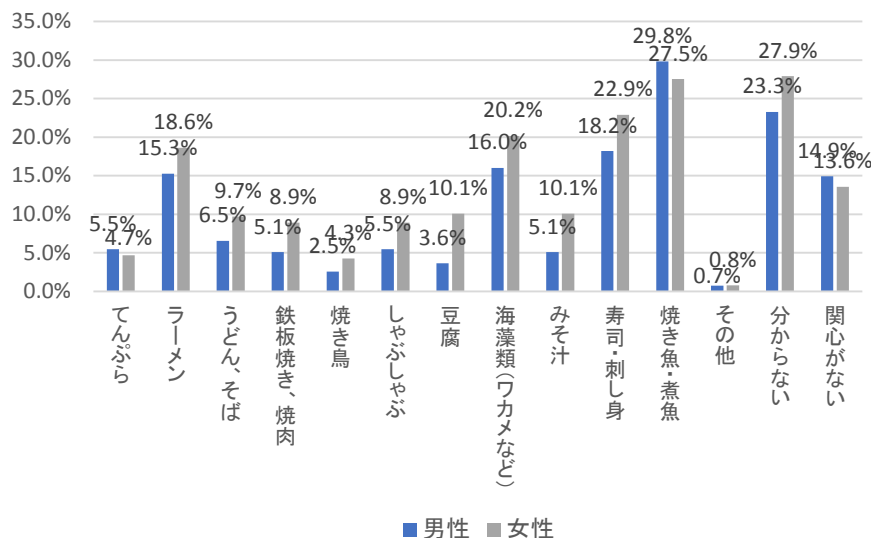
日本食への関心で最も高いのは「焼き魚・煮魚」であり、続いて「寿司・刺し身」が高い結果となった。このことは、健康食品の調査を行う中であったため、「健康によい日本食」を選択したことが影響している可能性が考えられる。

(Q12) 日本食は健康に良い食事と言われていますが、あなたは、どのような日本食に関心がありますか。[複数回答]



性別に見ると、男性は「焼き魚・煮魚」への関心が女性よりもやや高い。一方で、女性は男性よりも「ラーメン」「鉄板焼き・焼肉」「しゃぶしゃぶ」「豆腐」「寿司・刺し身」への関心が高い。ただし、「分からない」とする回答も女性の方が高く、一般的に女性が日本食への関心が高いとは言い難い。

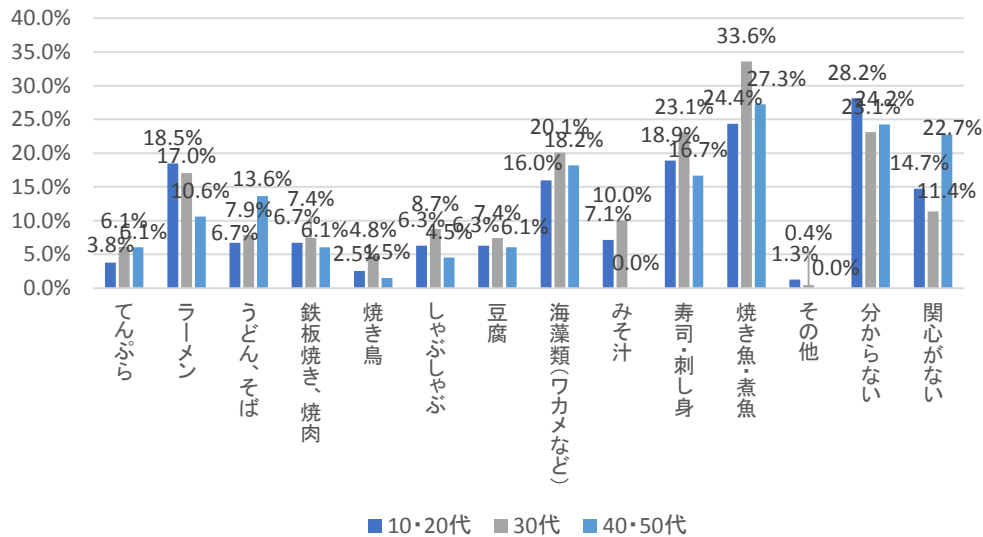
(Q12) (性別)



参考資料

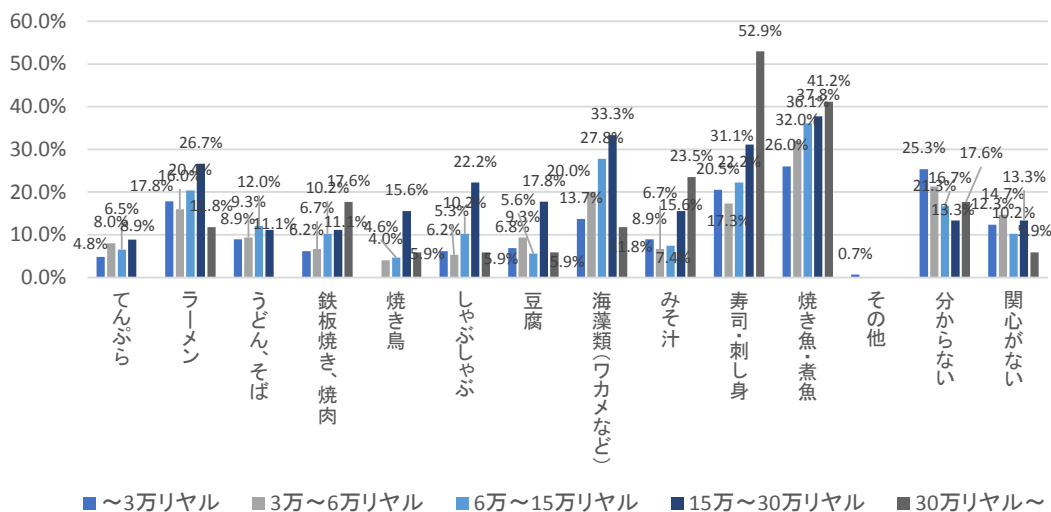
年代別に見ると、「ラーメン」は10・20代で高く、「うどん、そば」は40・50代で高い。また、30代は他の年代と比較して「焼き鳥」「しゃぶしゃぶ」「海藻類（ワカメなど）」「寿司・刺し身」「焼き魚・煮魚」で高く、「分からない」「関心がない」が低いため、30代は日本食への関心が高いと考えられる。

(Q12) (年代別)



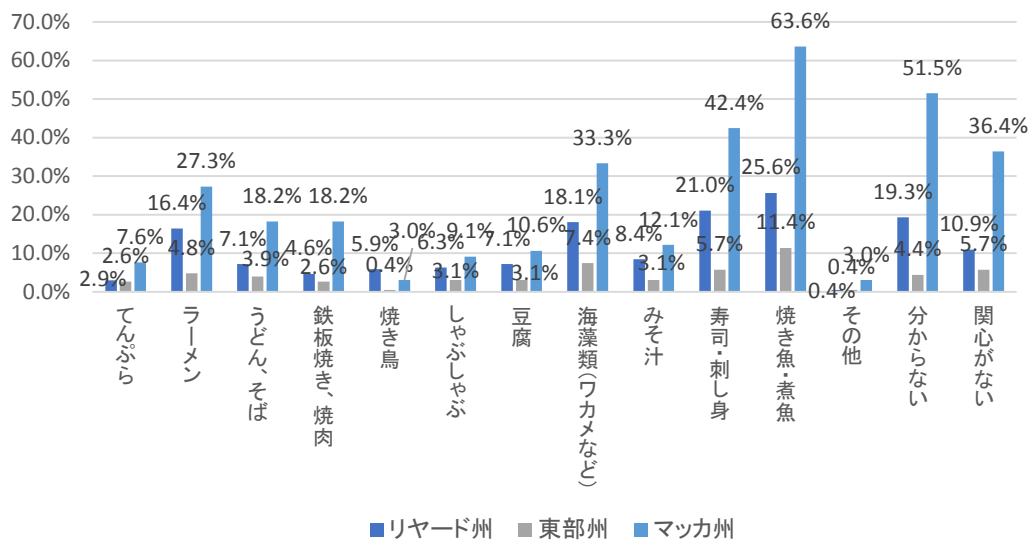
収入別に見ると、全体的に年収が高い層ほどそれぞれの日本食への関心が高い一方で、「分からない」と回答した割合は年収が低い層ほど高い。年収が高い層ほど日本食についての知識が豊富であると考えられる。

(Q12) (収入別)



居住地別に見ると、マッカ州では日本食についての関心が高く、多くの項目で他州よりも高い結果となり、リヤード州はあまり日本食のそれぞれの詳細については回答が少なかった。ただし、「分からない」「関心がない」についてもマッカ州で高く、リヤード州で低い結果となっているため、マッカ州の回答者のうち、日本食に関心がある回答者は複数の日本食に知識及び関心があるということが考えられる。

(Q12) (居住地別)



【自由記述】510 件の回答があった（全回答数 533 件）。

(Q13) あなたが健康食品について思うことを、自由に記載してください。[任意]

- ・ 水産物が健康に良いという認識が多く、回答者にあり、「魚・海産物・シーフード（31 名）」といったキーワードが多く見られた。加えて、「エビ（10 名）」「ツナ（2 名）」「サバ（1 名）」と固有名詞を挙げている回答も見られた。
- ・ 味については評価が分かれた。20 名がおいしくない・味がしない等のネガティブな回答をする一方で、8 名はおいしいと回答した。
- ・ 価格については高いとする回答が 4 名からあった。安い・リーズナブルだという回答は見られなかった。
- ・ オーガニックであることを重視する回答も 2 名からあったが、オーガニックが多くの人に知られている状況にはないと考えられる。
- ・ ほぼ多くの回答が「良いもの」「たくさん取るべきもの」「好きなもの」と回答しており、「よくわからない」「知らない」という回答は 2 名と少なかった。一般的には好意的に評価されていると考えられる。「大嘘」「幻想」（それぞれ 1 名）といった回答は少なかった。

参考2 周辺国の農業政策

本章では、サウジアラビアを含む GCC 諸国並びにイラン・イラクについて、関連するマクロ指標の比較ならびに農業関連政策の比較を行う。

2-1 農業・水産関連データの周辺国との比較

サウジアラビアは農業（農地面積）や水産養殖業（海岸線）において最大規模の資源を有する。

図表 120 国内資源量に関する指標の比較

国名	海岸線の長さ (km)	農地面積 (100万ha)	灌漑面積率 (%)	エネルギー生産量 (Mtoe; 2015年)	労働人口 (100万人; 2015年)
サウジアラビア 	2,640	173,700	69	648.6	12.6
UAE 	1,318	384.6	N/A	229.6	6.3
カタール 	563	66.0	47	221.3	1.8
クウェート 	499	149.7	100	167.8	2.2
オマーン 	2,092	1.8	N/A	77.8	2.4
バーレーン 	161	0.2	100	22.8	0.8
イラン 	2,440	46,500	50	298.9	18.4
イラク 	58	9,300	N/A	157.6	8.9

出所) World Bank, World Resources Institute, Arab Agricultural Statistics (2016), FAO 等より
NRI 作成

食料・農産物の GDP や生産高、輸出量は、イランが最大である。

図表 121 生産・輸出に関連する指標の比較

国名	名目GDP (10億USD; 2016年)	農業GDP (10億USD; 2016)	農業輸出 (USD bn; 2015)	食品輸出 (USD bn; 2015)
サウジアラビア	646.4	17.3	1.9	1.5
UAE	348.7	2.8	3.5	2.7
カタール	152.5	0.3	1.8	0.1
クウェート	110.9	0.6	0.2	0.1
オマーン	66.3	1.3	1.0	0.6
バーレーン	32.2	0.1	0.4	0.1
イラン	419.0	40.4	6.8*	N/A
イラク	171.5	8.7	4.2*	N/A

出所) World Bank, World Resources Institute, FAO より NRI 作成

人口ではイラン、購買力 (GNI) ではカタール、海外観光者受け入れ並びに食料輸入額はサウジアラビアがそれぞれ最大である。サウジアラビアへの観光客は国内に 2 箇所あるイスラムの聖地 (メッカ、メディナ) への巡礼客が中心である。

図表 122 市場規模に関連する指標の比較

国名	人口 (100万人; 2015年)	過去5年間の 人口増加率(%)	一人当たりGNI (1,000ドル; 2016年)	国際観光者数 (100万人; 2015年)	純食料輸入額 (10億USD; 2015年)
サウジアラビア	31.6	2.3	21.7	18	45.4
UAE	9.2	1.3	40.5	15	15.3
カタール	2.5	3.5	75.7	2.9	6.4
クウェート	3.9	2.9	34.9	0.3	3.0
オマーン	4.2	5.2	18.1	1.9	2.9
バーレーン	1.4	3.8	22.7	11.6	1.0
イラン	79.4	1.3	5.4	5.24	12.2
イラク	36.1	3.2	5.4	N/A	~ 7.0

注) GNI=国民総所得 (Gross National Income)

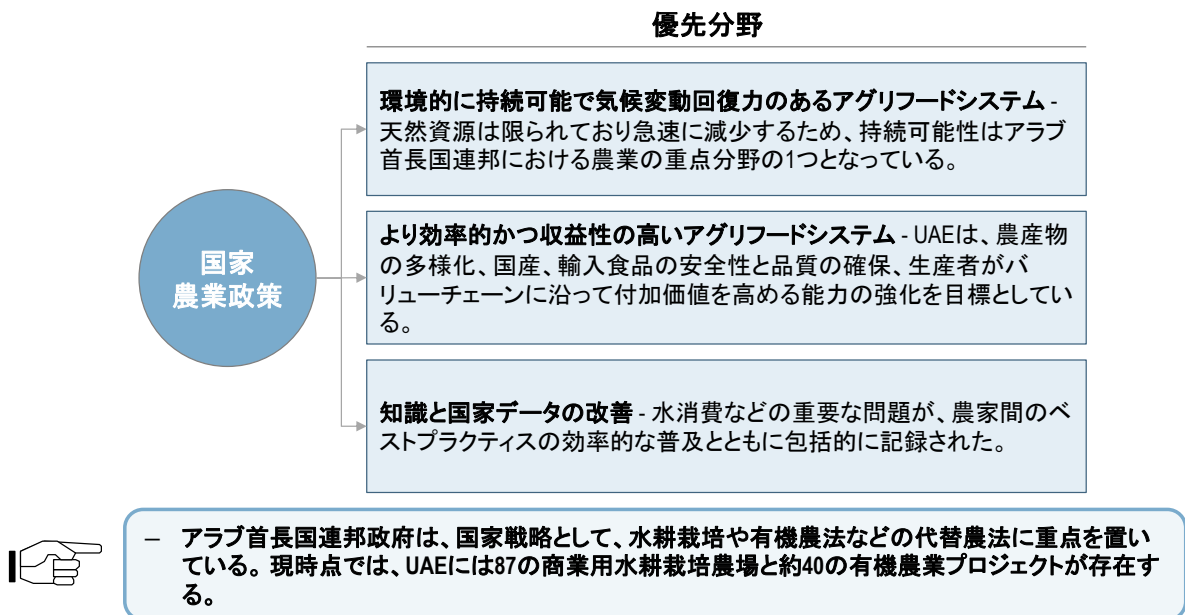
出所) World Bank, World Resources Institute, Arab Agricultural Statistics (2016), FAO 等から NRI 作成

2-2 周辺国の農業政策

2-2-1 アラブ首長国連邦

アラブ首長国連邦は国連食糧農業機関と協議した結果として、2016年に初めて農業政策を導入した。持続可能性、効率・収益性、知識の共有等に力点が置かれており、水耕栽培や有機農法等の農法に注目している。

図表 123 アラブ首長国連邦 – 農業政策



出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-2 カタール

カタールの国家食料安全保障プログラム (QNFSP) は、国内の食料自給率 70%を実現するための国家戦略である。農業、食品加工、水の管理並びに再生可能エネルギーの活用が重点項目である。

図表 124 カタール – 国家食料保障プログラム

	重点分野	説明
	農業	・ 経済効率の向上、希少資源の最適利用、環境への最小限の影響と収益性の高い農業を実現するためのグローバルベストプラクティスの導入。 ・ 温室栽培、水耕栽培、先進的灌漑システムの推進。 ・ 補助金と価格支持制度の導入。
	食品製造	・ さまざまな生食品の処理レベルを上げる。 ・ 適切な貯蔵施設と輸送インフラを備えた農業工業団地を建設して輸出を促進する。
	水	・ QNFSPは、灌漑や農業の運営を最適化し国家の水管理を促進するために必要な措置を講じている。 ・ カタールは淡水化プロジェクトに多額の投資を行っている。
	再生可能エネルギー	・ カタール政府は、太陽エネルギーと風力エネルギーを使って電力生産を大きく進めている。 ・ すべての電力源の統合を促進するスマートグリッドの採用も重点分野である。

出所) www.hukoomi.qa、Reuters、政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-3 クウェート

クウェートにおいて、食料安全保障は効率的な水資源管理と同様に施設農業など革新的な農業を通じて達成されるべき重点分野である。

「食料および水の安全保障の見通し 2025」において、クウェート政府が農業発展させるための重点分野は以下の通りである。

- ✓ 水不足を緩和するための施設農業 - クウェートは、国の天然資源不足を解決しうる代替食品生産技術を検討
- ✓ 漁業と養殖業の発展
- ✓ 食料安全保障への種子技術の発展
- ✓ 特に牛における、動物疾病の発生を抑える

2015 年 5 月、クウェートは 2040 年までの食料自給計画を発表した。クウェートの食料と水の安全保障を 2025 年までに確保するため、以下のアクションが特定された。²²

- ✓ 農業技術への投資 - クウェートは、急激な水不足や気候の悪影響を被っているため、干ばつを防ぎ、効率的に水を使用しながら食料生産を増加させようとしている。

²² FAO Country Report 並びに <http://www.futuredirections.org.au/publication/kuwait-food-and-water-security/>

- ✓ 食料貯蔵量の増加 - 食料輸入に伴う脆弱性を軽減するため、クウェートはより多くの食料品を保管するためのインフラを構築している。
- ✓ 水資源管理 - クウェート政府は、地下水資源の不足と給水需要の増加により、1人当たりの水消費を削減し、排水管理と淡水化プロジェクトに投資する宣言をした。
- ✓ デマンドサイドマネジメント - クウェートは豊かな社会と低い食品価格を背景に、栄養過多と多大な食品廃棄をもたらしている。これらの課題に取り組むために、行動様式の変化を促すキャンペーンなどが導入された。

2-2-4 オマーン

オマーンは農業のサブセクターとして漁業を位置づけ、重点を置いている。塩害等を背景とする水資源の管理・効率的利用が最優先事項となっている。

図表 125 オマーン - 農業重点分野

重点分野	説明
オマーンの農業における持続可能な発展	- オマーン政府は、農業セクターの競争力と付加価値を高め、持続可能な天然資源管理を促進し、地方の生計機会を支援するために、持続可能な農業と地方開発戦略を推進している。 - 更なる災害リスク管理と気候変動適応、気候変動軽減戦略は、もう一つの重点分野。 - 政府は、従来の農業に加えて家畜や漁業分野をカバーする農業保険の浸透を推進している。
オマーンの漁業復興	- 魚粉および魚油分野は、オマーンの漁業および水産養殖分野における優先サブセクターである。 - FAOは、漁業活動のより効果的な監視を可能にする船舶監視システム(VMS)においてオマーンを支援している。
水資源管理における地域協力	- 塩害地域やオマーンの天然資源の枯渇を考慮すると、希少な水資源の管理と効率的な利用が最優先事項である。 - オマーンでは塩水を用いた食料生産技術の導入が大きな可能性を秘めている。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-5 バーレーン

国土が小さいバーレーンでは、水産養殖業が重点産業の 1 つであり、技術と資本の両面で投資を求めるテーマである。

図表 126 バーレーン - 水産業重点分野

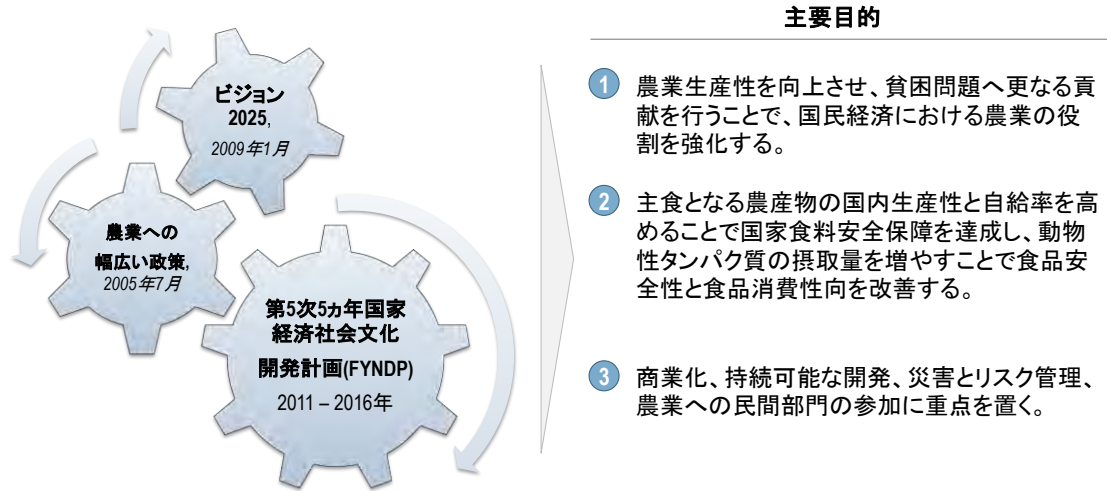
重点分野	説明
養殖生産の促進	・ 気候、地理、沿岸地域、市場ネットワークなど、バーレーンは養殖業発展の強い可能性を秘めている。 ・ バーレーンは2008年に稚魚(2グラム／匹)を400万匹生産できる、養殖産業を開発した。 ・ バーレーン政府は、水産養殖業をさらに発展させる技術を積極的に模索している。
畜産業への支援	・ バーレーンでは動物性食品の消費が多く、最も急速に成長する食品分野の1つになると期待されている。 ・ 家畜開発戦略には、品種改良、人工授精(AI)分野の意識啓発、遺伝的特性とその保存が含まれる。
緊急時対応のための能力形成	・ バーレーンは、国境を越えた動物疾病の緊急事態に対処し、地域保全を確保する能力の強化を検討している。 ・ 食料安全保障措置の発展は、バーレーン政府にとってもう一つの優先事項である。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-6 イラン

既存の地政学的懸念とイランに対する複数の経済制裁を背景とし、農業自給率の向上はイラン政府の最優先事項の 1 つとなっている。

図表 127 イラン – 農業政策の目的



出所) FAO Country Report より NRI 作成

イランは国内農業の保護に力を入れており、生産者への融資、消費者への食料補助金、輸入規制を行っている。

図表 128 イラン – 近年の政策段階

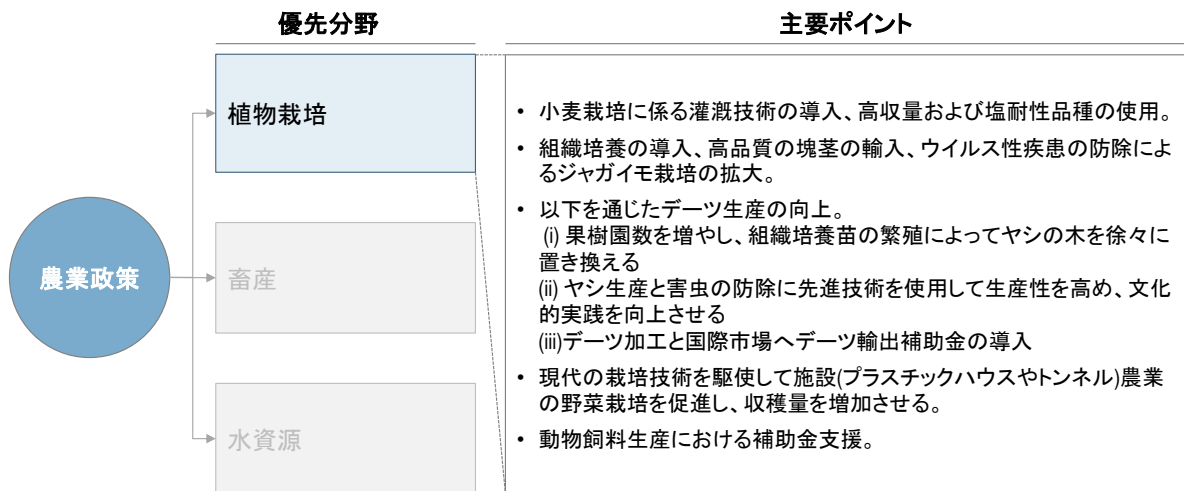
生産者向け 政策	✓ 農業開発のための融資支援 - 農家への支援の主な形態は、イランの専門銀行である Keshavarzi 銀行による農業ソフトローンの提供。近年、ローン金利は低下している。 ✓ 購入保証価格の継続的な上昇 - 政府は、小麦、米およびその他18の作物の最低価格を策定し、その結果頻繁に世界価格をはるかに上回る国内価格が生産者に支払われることとなった。 ✓ 農業保険および災害リスク管理の支援 - 農産物保険基金(APIF)は、復興および補償基金を増やし、保険適用範囲を拡大すること(耕作農地の三分の一はAPIFの対象になっている)によって支援を提供している。
消費者向け 政策	✓ 新しい現金ベースの保護策が従来の食料補助金に取って代わった - 2010年10月、政府は補助金改革による価格上昇の緩衝材として、2カ月ごとに8ドルを個人に移転し始めた。さらに各個人に45.5ドルの一時金が与えられた。 ✓ 間接的な食料補助金の継続 - 食糧向け付加価値税は3%と、通常9%より低く抑えられている。
貿易 政策	✓ 新規の二国間協定 - イランはケニア(2010年)、インドネシア(2013年)との二国間貿易協定を締結し、中国、UAE、トルコ、EU(27)、インドなど新規のパートナー国を探している。 ✓ 保護貿易措置の強化 - イラン政府は、国内生産者を保護するために、定期的に米、果物、野菜などの主要作物に輸入制限を課している。2012年には小麦、小麦粉、砂糖、赤肉など50品目に対する輸出禁止令が発令された。

出所) FAO Country Report より NRI 作成

2-2-7 イラク

イラク政府の農業政策における優先分野の一つは、質と量の両面で国の作物生産を向上させることである。

図表 129 イラク – 政府の優先分野（植物栽培）

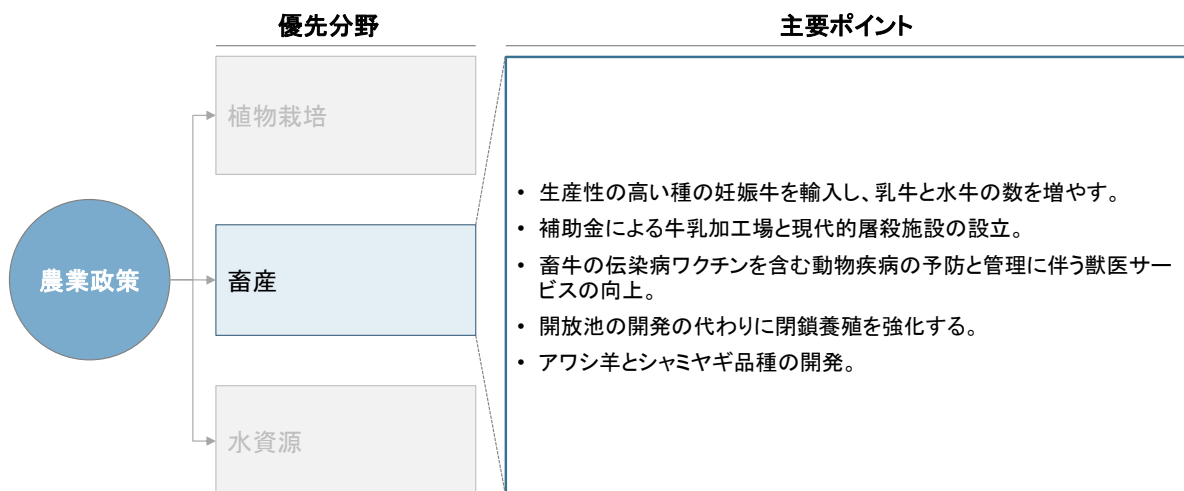


– 植物栽培におけるイラク政府の目的は、既存作物の収穫量を向上させる技術の推進。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

イラク政府は畜産業への補助金その他、閉鎖養殖に基づく養殖部門の導入を検討中である。

図表 130 イラク – 政府の優先分野（畜産）

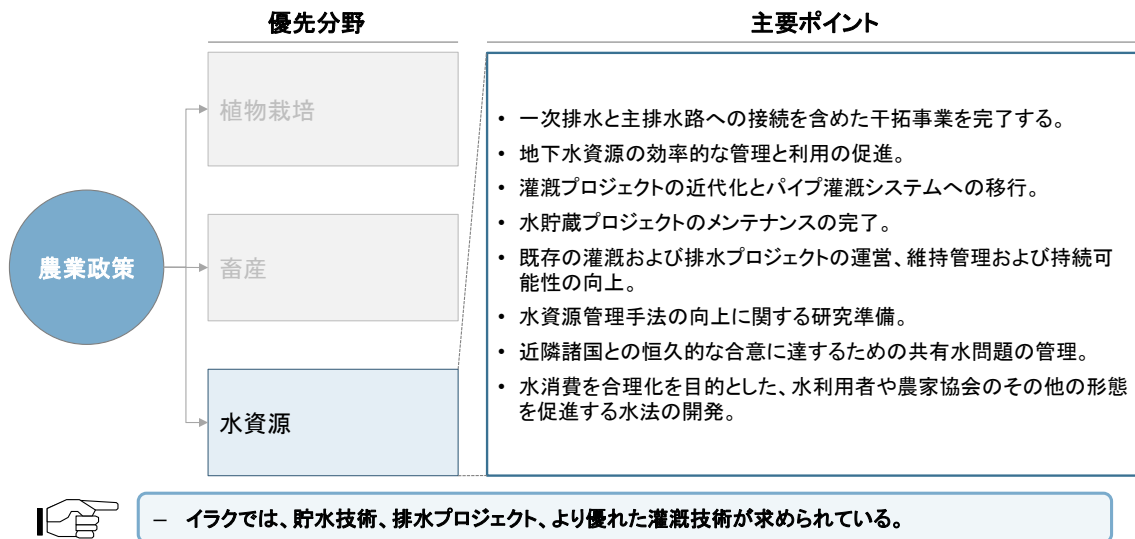


– 肉および酪農産業は、より優れた加工技術が必要なイラクの重要な分野。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

イラク政府は、農作物生産計画への灌漑需要を支援するため効率的な水資源管理に焦点を当てている。

図表 131 イラク – 政府の優先分野（水資源）



出所) 政府文書、FAO より NRI 作成